

第3章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

3.1 自然的状況

3.1.1 大気環境の状況

(1) 気象の状況

対象事業実施区域に近い地域気象観測所として、市浦地域気象観測所がある。気象観測所の位置を図 3-1-1-1 に、市浦地域気象観測所における過去 10 年間の気象の状況を表 3-1-1-1 及び図 3-1-1-2 に、過去 10 年間の月別最多風向による風配図を図 3-1-1-3 に、それぞれ示す。

市浦地域気象観測所における 10 年間の平均気温は 10.4℃、月の平均気温では 8 月が 23.4℃と最も高く、1 月が-0.8℃と最も低く氷点下となっている。

降水量は 10 ヶ年平均で 1,473.8mm であり、月別降水量では 9 月が 181.2mm と最も多く、6 月が 56.8mm と最も少ない。

地表における風速は 10 ヶ年平均で 2.3m/s であり、月別では 1 月、2 月及び 12 月に 2.6m/s で最も強く、夏季にやや弱くなる傾向がある。最多風向は北西が多く、月別にみると 10 月～3 月は北西方向からの風が、4 月～9 月には東方向からの風がそれぞれ多い。

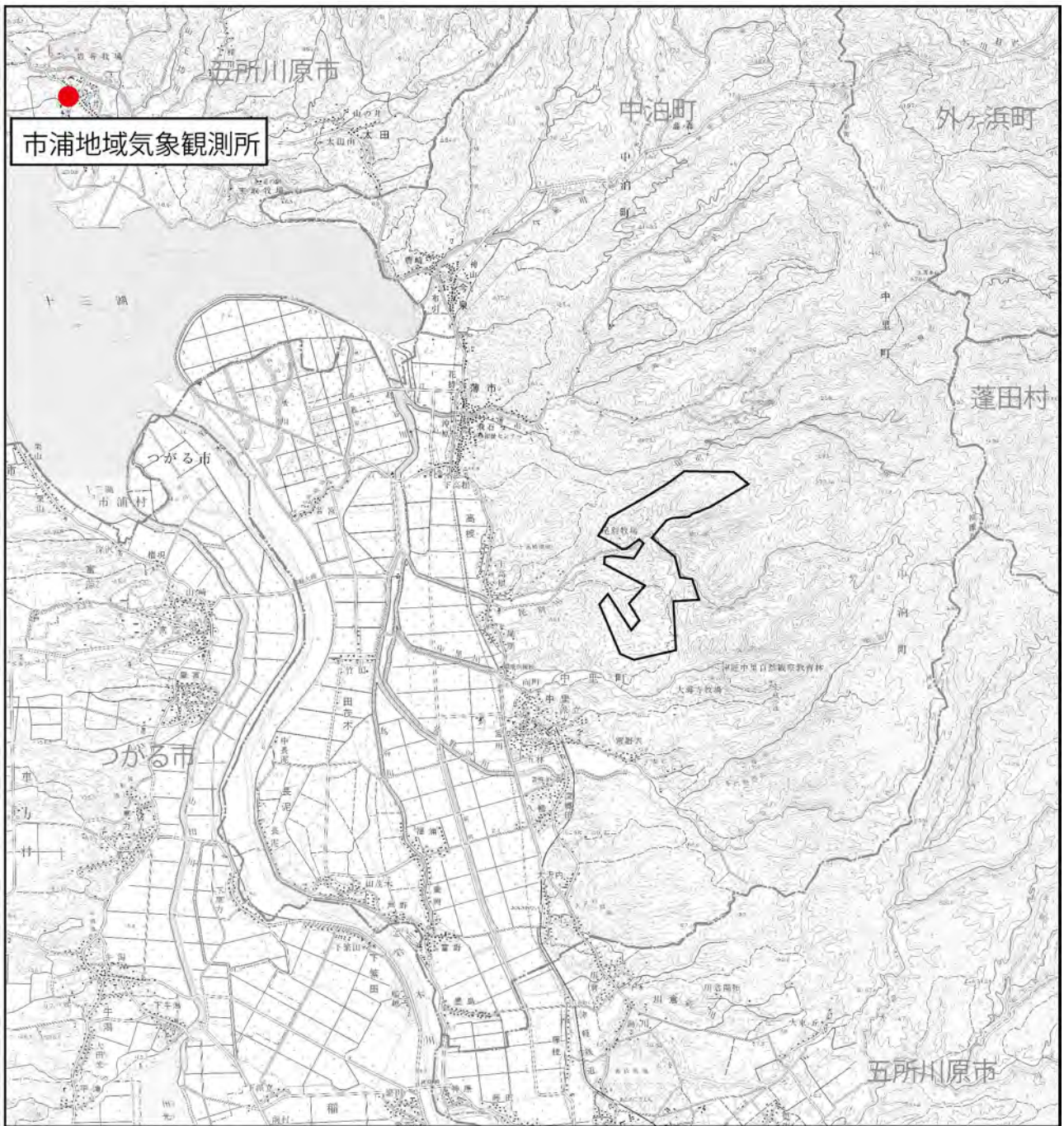
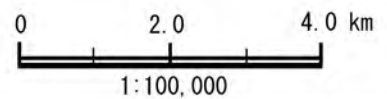


図 3-1-1-1 気象観測所位置

凡 例

○ : 対象事業実施区域

● : 気象観測所



出典:気象庁ホームページ「地域気象観測所一覧」

表 3-1-1-1 気象の概況(市浦地域気象観測所 平成 16 年～平成 25 年 10 ヶ年)

年	気温(平均) (°C)			最多 風向	風速(m/s)		日照 時間 (時)	降水量(mm)		
	平均	日最高	日最低		平均	最大		合計	日最大	
平成 16 年	11.0	14.5	7.4	北西	1.8	9	1,276.9	1,358	50	
平成 17 年	10.0	13.3	6.6	北西	2.1	7	1,211.0	1,658	95	
平成 18 年	10.0	13.6	6.6	北西	2.2	9	1,232.8	1,262	100	
平成 19 年	10.7	14.2	7.2	西北西	2.5	11	1,565.5	1,187	58	
平成 20 年	10.5	14.2	7.0	西北西	2.4	10	1,519.5	996.0	55.0	
平成 21 年	10.3	14.0	6.5	東	2.4	12.6	1,518.2	1,618.0	83.0	
平成 22 年	10.8	14.3	7.4	北西	2.2	10.2	1,371.1	1,897.0	116.5	
平成 23 年	10.3	13.9	6.7	北西	2.3	10.1	1,486.0	1,543.5	71.5	
平成 24 年	10.2	13.7	6.9	東	2.4	12.7	1,547.8	1,585.5	70.5	
平成 25 年	10.2	13.8	6.7	西北西	2.4	9.1	1,354.0	1,632.5	72.5	
10 ヶ年平均	10.4	14.0	6.9	北西	2.3	10.1	1,408.3	1,473.8	77.2	
10 カ 年 月 別 平 均	1 月	-0.8	1.7	-3.6	北西	2.6	7.5	33.4	131.1	21.1
	2 月	-0.3	2.6	-3.4	北西	2.6	8.4	57.7	90.9	18.7
	3 月	2.5	5.7	-0.9	西北西	2.5	7.4	102.9	85.7	21.1
	4 月	7.3	11.3	3.2	東北東	2.5	8.4	163.8	88.5	24.1
	5 月	12.2	16.2	8.3	東	2.2	8.5	161.2	93.1	28.3
	6 月	17.2	21.4	13.6	東北東、東	2.0	7.2	175.1	56.8	19.2
	7 月	20.9	24.3	18.1	東	2.2	7.0	134.4	127.1	36.2
	8 月	23.4	27.3	20.0	東	1.8	6.9	181.1	175.7	63.9
	9 月	19.6	23.8	15.5	東	1.8	7.3	162.3	181.2	58.8
	10 月	13.5	17.7	9.0	西北西	2.0	6.5	138.9	122.7	36.5
	11 月	7.6	11.1	3.9	西北西	2.3	7.5	62.5	175.2	31.1
	12 月	1.8	4.5	-1.1	西北西	2.6	8.3	35.2	146.2	28.5

出典：気象庁ホームページ(気象統計情報)

注)最大風速は平成 21 年以降から、日最大降水量は平成 20 年以降から、それぞれ小数点第一位まで発表

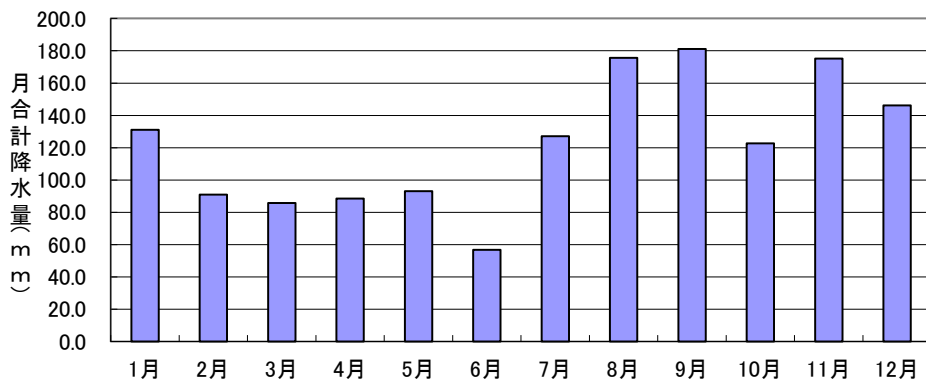
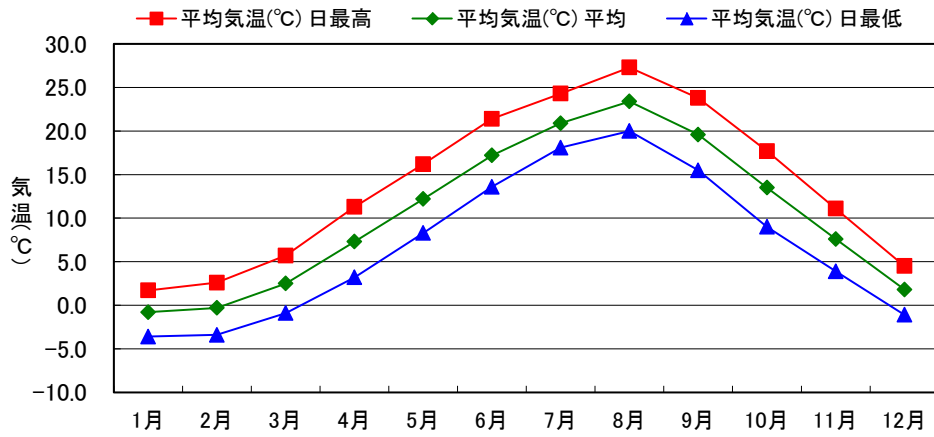


図 3-1-1-2 10 カ年月別平均気温及び降水量

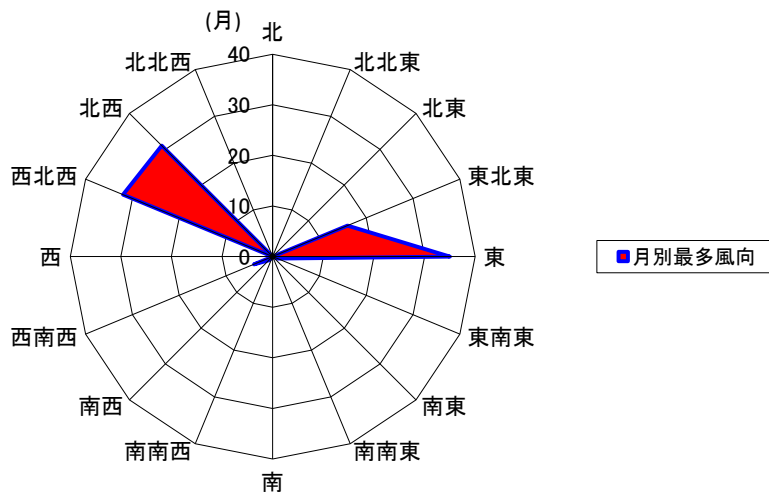


図 3-1-1-3 10 カ年月別最多風向による風配図

(2) 大気質の状況

対象事業実施区域に最も近い青森県の一般環境大気測定局は、南方向に 20km ほど離れた五所川原第三中学校測定局であり、窒素酸化物、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質について測定が行われている。五所川原第三中学校測定局における過去 5 年間の測定結果を表 3-1-1-2(1)～(4)に、位置を図 3-1-1-4 に、それぞれ示す。

二酸化窒素は過去 5 年間の全ての年度で環境基準値を満足しているが、浮遊粒子状物質では環境基準値を満たしていない年度もある。また、微小粒子状物質は平成 23 年度から測定が行われており、平成 23 年度の短期基準値は環境基準値を超過しているが、長期基準値については環境基準を満足している。

表 3-1-1-2(1) 二酸化窒素(NO₂)濃度(平成 20 年度～平成 24 年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	1 時間値 の最高値	1 時間値が 0.2ppm を 超 えた 時間数と その割合		1 時間値が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下 の時間数と その割合		日平均値が 0.06ppm を 超 えた日数 とその割合		日平均 値の年 間 98% 値	98% 値 評価に よる日 平均値 が 0.06 ppm を 超 えた 日 数	環 境 基 準 適 合 状 況
			時間	%	時間	%	日	%			
平成 20	0.005	0.040	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.011	0	○
平成 21	0.005	0.051	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.012	0	○
平成 22	0.005	0.050	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0	○
平成 23	0.004	0.049	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.014	0	○
平成 24	0.004	0.044	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.013	0	○

注) 「98%値評価による日平均値 0.06ppm を超えた日数」とは、1 年間の日平均値のうち低い方から 98%の範囲にあって、かつ、0.06ppm を超えたものの日数である。

出典：環境白書(平成 21 年版～25 年版 青森県)

表 3-1-1-2(2) 一酸化窒素(NO)濃度及び窒素酸化物(NO+NO₂)濃度(平成20年度～平成24年度)
(五所川原第三中学校)

年 度	一酸化窒素(NO)			窒素酸化物(NO+NO ₂)			
	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の年間98%値	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の年間98%値	年平均値 NO ₂ /NO+NO ₂
	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	ppm	%
平成20	0.001	0.023	0.003	0.006	0.059	0.013	82.4
平成21	0.001	0.047	0.003	0.005	0.078	0.016	85.6
平成22	0.001	0.068	0.003	0.006	0.118	0.017	86.2
平成23	0.001	0.059	0.005	0.005	0.085	0.019	84.2
平成24	0.001	0.052	0.003	0.005	0.092	0.016	86.0

出典：環境白書(平成21年版～25年版 青森県)

表 3-1-1-2(3) 浮遊粒子状物質(SPM)濃度(平成20年度～平成24年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	1時間値の最高値	日平均値の2%除外値	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数	環境基準適合状況
	mg/m ³	時間	日	mg/m ³	mg/m ³	有×・無○	日	長期的評価
平成20	0.026	26	4	0.714	0.080	×	4	×
平成21	0.023	1	0	0.241	0.049	○	0	○
平成22	0.025	5	1	1.100	0.049	○	0	○
平成23	0.022	5	0	0.346	0.050	○	0	○
平成24	0.024	0	0	0.136	0.049	○	0	○

注)「環境基準の長期的評価による日平均値が0.10mg/m³を超えた日数」とは、日平均値の高い方から2%の範囲の日平均値を除外した後の日平均値のうち0.10mg/m³を超えた日数である。ただし、日平均値が0.10mg/m³を超えた日が2日以上連続した延日数のうち、2%除外該当に入っている日数分については除外しない。

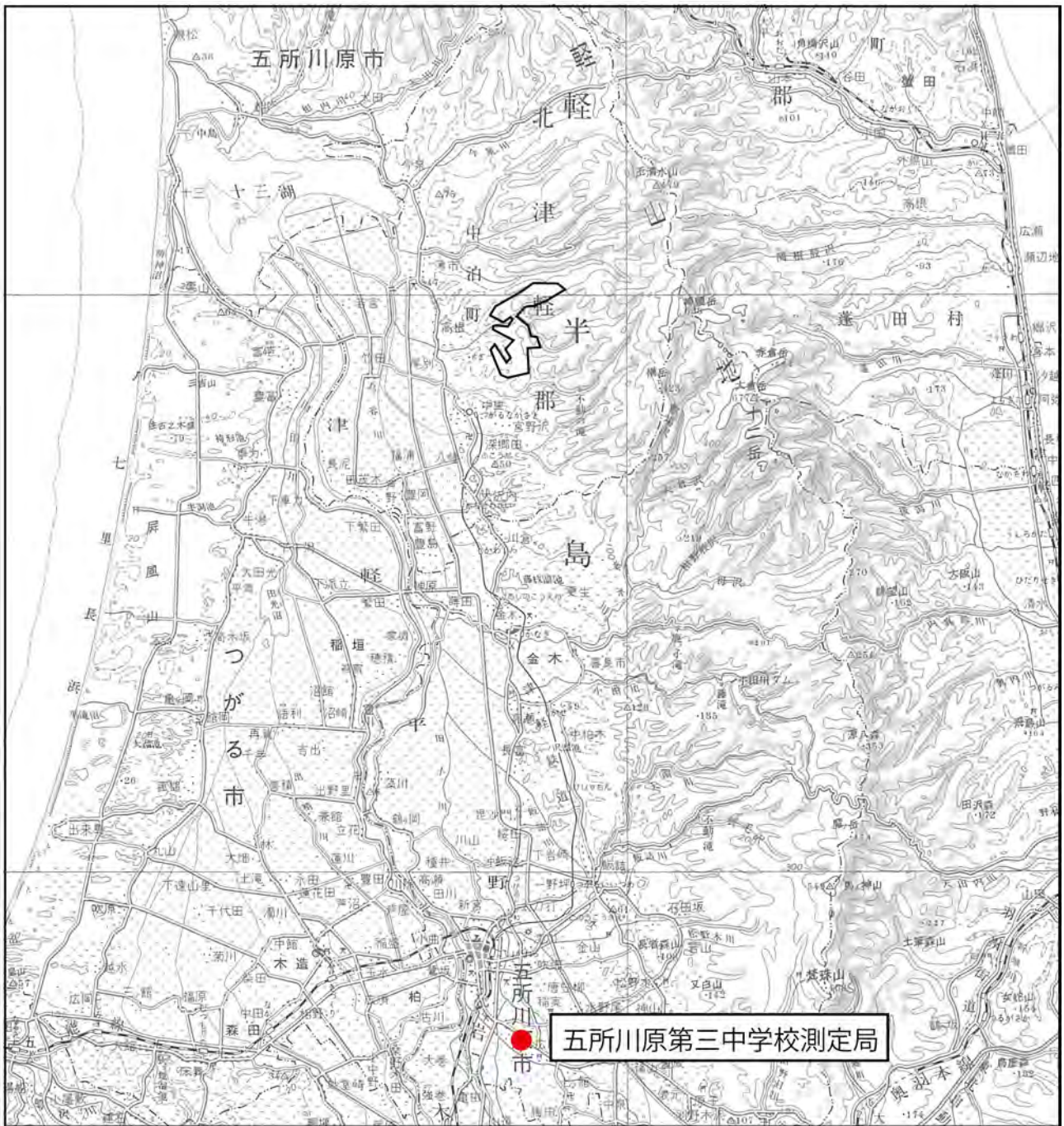
出典：環境白書(平成21年版～25年版 青森県)

表 3-1-1-2(4) 微小粒子状物質濃度(平成23年度～平成24年度)(五所川原第三中学校)

年 度	年平均値	日平均値の年間98%値	日平均値が35μg/m ³ を超えた日数	日平均値が35μg/m ³ を超えた日数の割合	環境基準適合状況	
	μg/m ³	μg/m ³	日	%	短期基準に関する評価	長期基準に関する評価
平成23	13.7	38.0	11	3.0	×	○
平成24	11.2	28.2	1	0.3	○	○

注) 環境基準は「1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。」と定められている。短期基準に関する評価は日平均値の年間98%値について評価、長期基準に関する評価は、測定結果の1年平均値について評価する。

出典：環境白書(24年版～25年版青森県)

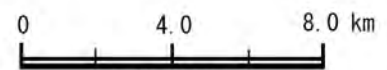


五所川原第三中学校測定局

図 3-1-1-4 一般環境大気測定局位置

凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 一般環境大気測定局



1:200,000

出典:環境白書(平成25年版 青森県)

(3) 騒音の状況

青森県では、自動車騒音の常時監視が行われている。中泊町では監視地点は設定されていないが、近隣の五所川原市では毎年調査が行われている。

平成 20 年度から平成 24 年度までに五所川原市内で実施された自動車騒音の測定結果を表 3-1-1-3 に、測定地点位置を図 3-1-1-5 にそれぞれ示す。

過去 5 年間の調査では、平成 24 年度の一般国道 101 号姥菴船橋の基準達成状況が 86.2%であったが、その他の監視地点では、評価対象における環境基準を満たしている。

表 3-1-1-3 自動車騒音の監視結果

No.	路線名	測定年度	測点名	環境基準 類 型	測定結果 (dB)		評価対象戸数 (戸)と環境基準 の達成状況 (%)
					昼間	夜間	
1	一般国道 339 号	平成 20	田町	C	65	57	486 (100%)
2	一般県道 252 号 五所川原停車場線	平成 21	大町	C	60	51	17 (100%)
3	一般県道 151 号 蒔田五所川原線	平成 22	芭蕉	A	50	45	145 (100%)
4	一般国道 101 号	平成 23	田町	C	66	60	468 (100%)
5	一般国道 101 号	平成 24	姥菴船橋	C	73	67	217 (86.2%)
6	一般国道 339 号 (バイパス)	平成 24	姥菴菖蒲	C	63	56	31 (100%)

出典：環境白書(平成 21 年版～25 年版 青森県)

(4) 振動の状況

青森県では、振動に係る測定は行われていない。

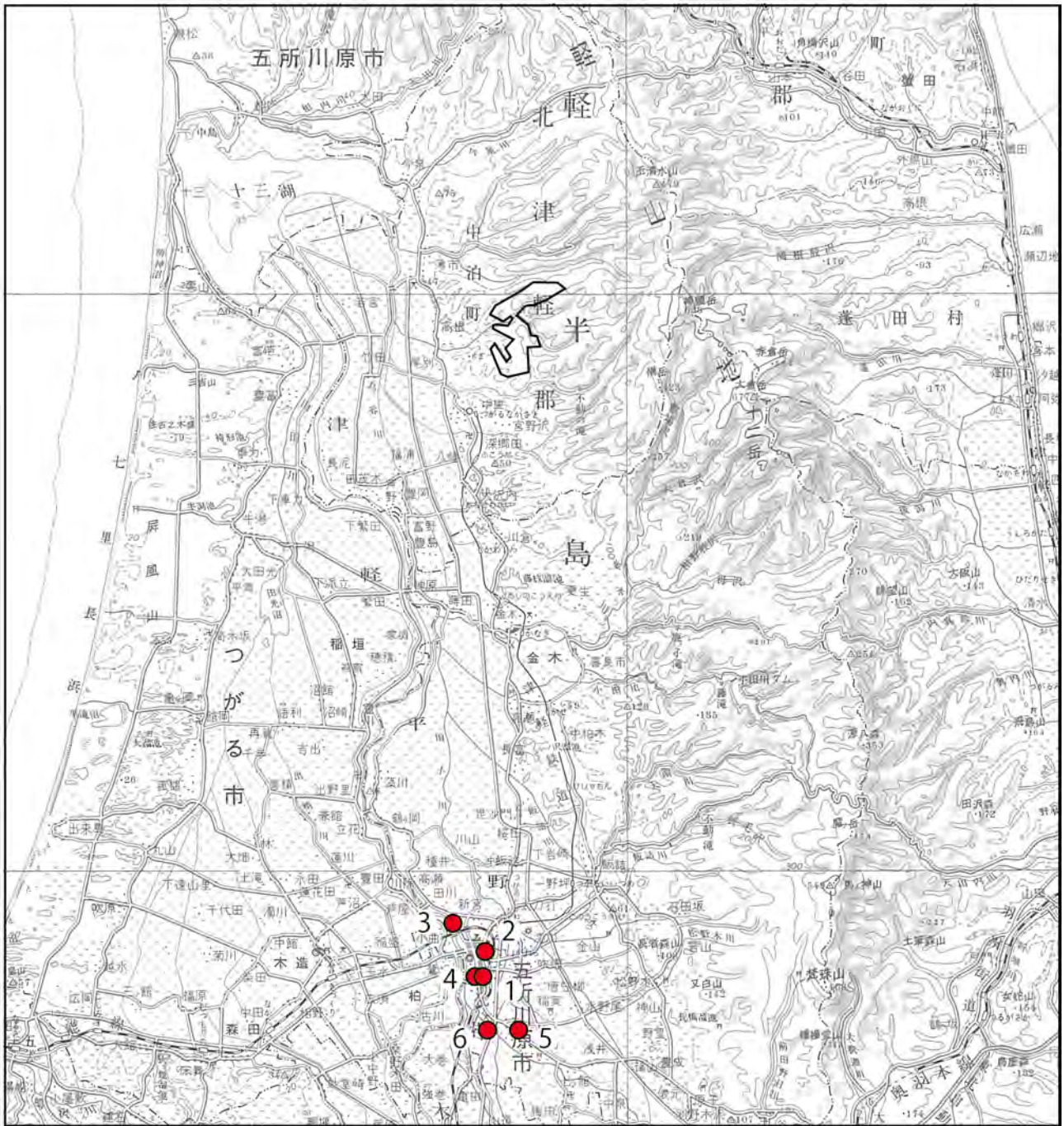


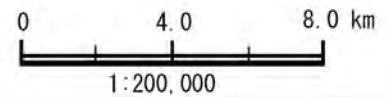
図 3-1-1-5 自動車騒音測定地点

凡 例

○ : 対象事業実施区域

● : 騒音測定地点

- 1. 田 町 : 一般国道339号
- 2. 大 町 : 一般県道252号(五所川原停車場線)
- 3. 芭 蕉 : 一般県道151号(蒔田五所川原線)
- 4. 田 町 : 一般国道101号
- 5. 姥范船橋 : 一般国道101号
- 6. 姥范菖蒲 : 一般国道339号(バイパス)



出典:環境白書(平成21年版~25年版 青森県)

3.1.2 水環境の状況

(1) 水象の状況

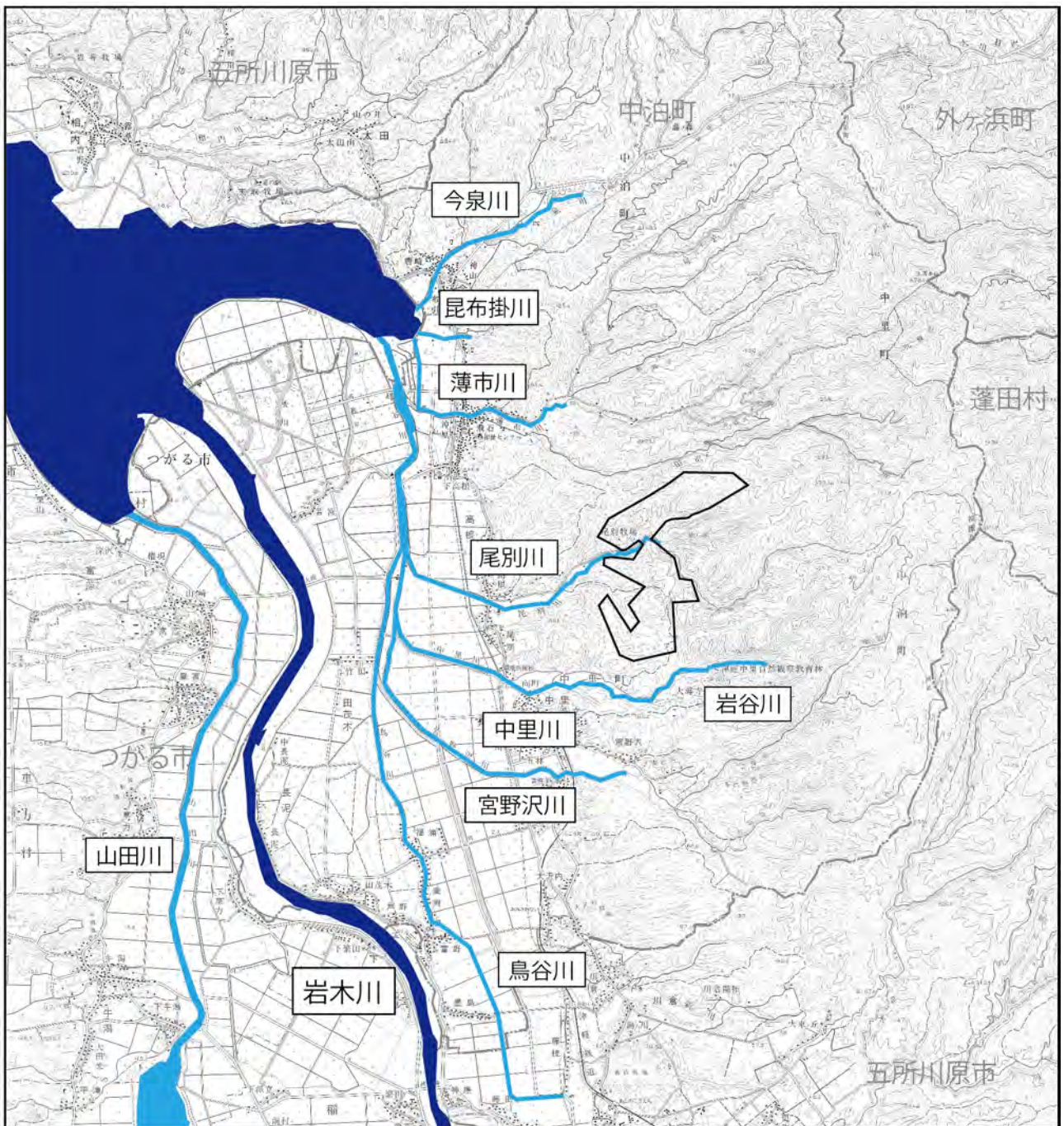
対象事業実施区域の西側を流れる岩木川は、青森・秋田県境の白神山地にある雁森岳に発し、津軽平野を貫流して十三湖に至り日本海に注ぐ一級河川であり、多くの支川が岩木川本川に流入している。

対象事業実施区域及びその周辺の河川名一覧を表 3-1-2-1 に、河川位置を図 3-1-2-1 にそれぞれ示す。

表 3-1-2-1 河川名一覧

水系	河川名	幹川名	支派川 次数	区間延長(m)
岩木川	岩木川	岩木川	幹川	110,401.30
	山田川	岩木川	1	32,270.40
	今泉川	岩木川	1	6,000.00
	昆布掛川	岩木川	1	1,200.00
	薄市川	岩木川	1	4,500.00
	鳥谷川	岩木川	1	15,709.00
	尾別川	鳥谷川	2	4,700.00
	中里川	鳥谷川	2	6,000.00
	岩谷川	中里川	3	1,000.00
	宮野沢川	鳥谷川	2	6,500.00

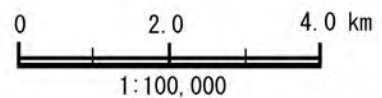
出典：河川調書（平成17年4月1日現在 青森県県土整備部河川砂防課）



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 一級河川(大臣管理区間)
- : 一級河川(知事管理区間)

図 3-1-2-1 河川位置



出典:河川調書(平成17年4月1日現在 青森県県土整備部河川砂防課)

(2) 水質の状況

青森県では公共用水域水質調査が行われており、対象事業実施区域及びその周辺では、岩木川下流の津軽大橋、十三湖中央、十三湖山田川河口、十三湖鳥谷川河口、岩木川上流の神田橋、山田川の車力橋の計 6 箇所水質調査が行われている。なお、これらの河川はそれぞれ環境基準の類型指定がなされており、岩木川下流(神田橋から下流)はB類型に、岩木川上流(神田橋から上流)及び山田川はA類型に、それぞれ指定されている。

公共用水域水質調査地点一覧を表 3-1-2-2 に、公共用水域水質調査地点位置を図 3-1-2-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-2-2 公共用水域水質調査地点一覧

水 域 名	地 点 名	類 型
岩 木 川 下 流	津 軽 大 橋	B
	十 三 湖 中 央	B
	十 三 湖 山 田 川 河 口	B
	十 三 湖 鳥 谷 川 河 口	B
岩 木 川 上 流	神 田 橋	A
山 田 川	車 力 橋	A

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 24 年度 青森県)

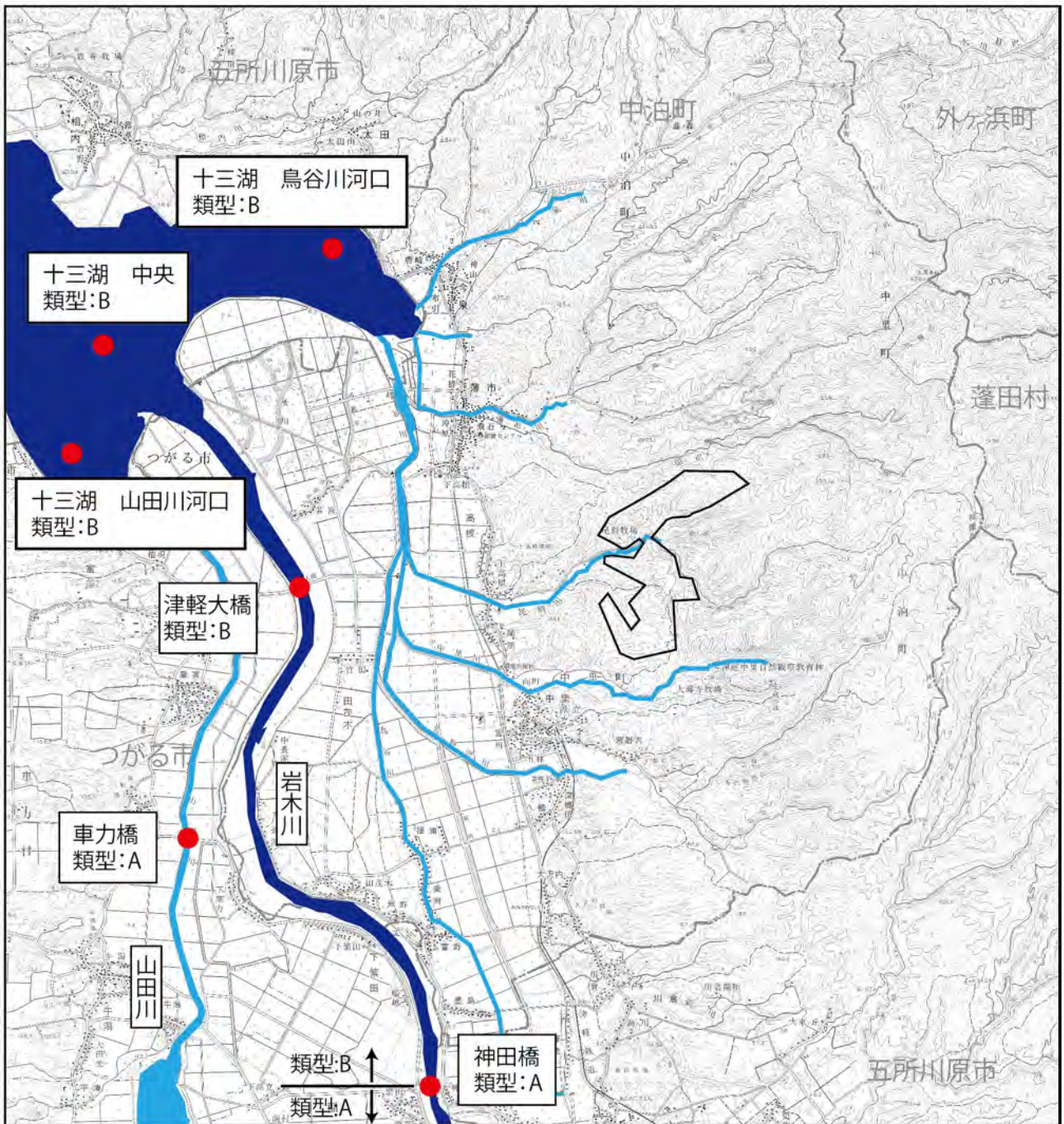


図 3-1-2-2 公共用水域水質調査地点位置

凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 公共用水域水質調査地点

出典:公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成24年度 青森県)

1) 津軽大橋

津軽大橋における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-3～表3-1-2-4にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(S)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、大腸菌群数は過去5年間、環境基準値を超過している。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表3-1-2-3 公共用水域水質測定結果(津軽大橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：津軽大橋、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	7.5 (7.1～9.3)	7.2 (6.9～7.5)	7.3 (7.0～8.0)	7.4 (7.0～8.1)	7.4 (7.1～8.5)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	1.6 (0.6～6.8)	1.3 (0.6～2.4)	1.5 (0.5～3.5)	1.3 (0.7～3.7)	1.6 (0.6～4.9)	3以下
	75%値 ^{注1}	1.9	1.6	1.5	1.8	1.6	
浮遊物質(SS)	mg/L	9 (3～21)	11 (3～46)	9 (3～26)	11 (3～31)	13 (2～44)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	10 (6.6～17)	10 (7.5～13)	10 (6.9～13)	10 (7.5～13)	10 (6.8～13)	5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	13,000 (790～ 79,000)	12,000 (490～ 79,000)	16,000 (490～ 140,000)	14,000 (790～ 49,000)	6,500 (1,300～ 14,000)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

表 3-1-2-4 公共用水域水質測定結果(津軽大橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川下流、地点名：津軽大橋、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
全シアン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	検出されないこと
鉛	mg/L	0.001	<0.001	0.001	<0.001	0.001	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下
砒素	mg/L	0.001	0.001	0.001	<0.001	0.001	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005 以下
PCB	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.03 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	<0.0001	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.56	0.66	0.63	0.54	0.59	10 以下
ふっ素	mg/L	0.12	0.10	0.13	0.19	0.18	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.09	0.07	0.09	0.36	0.09	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	<0.005	<0.005	<0.005	0.05 以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成 20 年度～平成 24 年度 青森県)

2) 十三湖 中央

十三湖中央における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-5～表3-1-2-6にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、溶存酸素(DO)の年平均値は過去5年間、環境基準値を満足し、生物化学的酸素要求量(BOD)は75%値で平成21年度及び平成24年度、浮遊物質量(SS)は平成20年度及び平成24年度で超過しているが、おおむね満足している。大腸菌群数は平成21年度及び平成24年度に環境基準値を満足しているが、超過する年度が多くなっている。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表3-1-2-5 公共用水域水質測定結果(十三湖 中央・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 中央、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	8.0 (7.6～8.6)	7.6 (7.0～8.2)	7.9 (7.3～8.8)	7.5 (6.9～8.0)	7.7 (7.1～8.2)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	2.4 (1.1～4.2)	2.9 (2.0～4.1)	2.1 (1.4～3.0)	1.4 (0.8～2.5)	2.5 (0.9～3.9)	3以下
	75%値 ^{注1}	2.4	3.1	2.6	1.3	3.5	
浮遊物質量(SS)	mg/L	37 (5～98)	20 (4～44)	10 (3～17)	14 (7～21)	30 (6～92)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	9.7 (8.9～11)	9.4 (8.4～11)	9.0 (7.0～13)	9.6 (8.9～11)	10 (9.3～11)	5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	6,100 (7～ 22,000)	2,800 (130～ 7,900)	14,000 (790～ 49,000)	24,000 (140～ 92,000)	1,100 (220～ 2,800)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

表3-1-2-6 公共用水域水質測定結果(十三湖・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 中央、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01以下
全シアン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	<0.001	0.01以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05以下
砒素	mg/L	0.002	<0.001	<0.001	0.001	0.002	0.01以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	0.0005以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	—	—	—	0.43	0.44	10以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

3) 十三湖 山田川河口

十三湖山田川河口における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-7に示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、浮遊物質(SS)は平成20年度及び平成24年度で超過している。大腸菌群数は、平成24年度に環境基準値を満足しているが、超過する年度が多くなっている。

なお、十三湖山田川河口では健康項目の水質測定は行われていない。

表3-1-2-7 公共用水域水質測定結果(十三湖 山田川河口・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 山田川河口、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	8.1 (7.6~8.6)	7.7 (7.6~7.9)	7.7 (7.1~8.9)	7.5 (7.4~7.8)	7.8 (7.2~8.6)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	2.8 (1.4~4.8)	2.6 (1.7~3.4)	2.6 (0.8~4.8)	1.4 (0.5~2.1)	2.8 (1.6~5.2)	3以下
	75%値 ^{注1}	3.0	2.8	2.6	1.9	2.8	
浮遊物質(SS)	mg/L	38 (7~100)	15 (7~20)	13 (3~24)	21 (7~46)	37 (5~87)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	9.7 (8.6~11)	9.2 (8.3~10)	8.9 (6.7~11)	9.3 (7.7~11)	10 (9.1~11)	5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	5,900 (79~ 22,000)	5,500 (490~ 13,000)	34,000 (790~ 130,000)	9,100 (130~ 28,000)	1,200 (490~ 2,400)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

4) 十三湖 鳥谷川河口

十三湖鳥谷川河口における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-8に示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、溶存酸素(DO)の年平均値等は過去5年間、環境基準値を満足し、生物化学的酸素要求量(BOD)は75%値で平成24年度、浮遊物質(S S)は平成20年度で超過している。大腸菌群数は平成21年度及び平成24年度に環境基準値を満足しているが、超過する年度が多くなっている。

なお、十三湖鳥谷川河口では健康項目の水質測定は行われていない。

表3-1-2-8 公共用水域水質測定結果(十三湖 鳥谷川河口・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川下流、地点名：十三湖 鳥谷川河口、類型：B

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	7.9 (7.5~8.0)	7.8 (7.2~8.2)	7.7 (7.4~8.1)	7.6 (7.4~8.0)	7.8 (7.3~8.4)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	2.7 (0.8~5.2)	1.9 (0.6~2.5)	2.1 (0.9~3.8)	0.9 (0.5~1.3)	3.1 (1.2~5.0)	3以下
	75%値 ^{注1)}	2.8	2.3	2.0	1.1	3.6	
浮遊物質(SS)	mg/L	60 (4~130)	25 (6~74)	14 (3~30)	16 (6~31)	14 (9~28)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	9.3 (8.6~10)	9.1 (7.9~10)	8.7 (6.6~11)	9.7 (9.0~11)	9.6 (7.7~11)	5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	7,000 (79~ 24,000)	3,100 (790~ 7,900)	9,300 (790~ 33,000)	6,200 (2~ 24,000)	500 (220~ 790)	5,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

5) 神田橋

神田橋における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-9～表3-1-2-10にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(S)、溶存酸素(DO)の年平均値等(生物化学的酸素要求量は75%値で評価)は過去5年間、環境基準値を満足し、大腸菌群数は過去5年間、環境基準値を超過している。

なお、健康項目では、水質測定が行われているすべての項目で環境基準値を満足している。

表3-1-2-9 公共用水域水質測定結果(神田橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：岩木川上流、地点名：神田橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	7.4 (7.1～8.2)	7.2 (6.9～7.4)	7.2 (6.9～7.4)	7.3 (6.9～8.5)	7.2 (7.0～7.4)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	1.5 (<0.5～3.4)	1.3 (0.8～2.5)	1.2 (<0.5～2.4)	1.3 (0.8～3.5)	1.1 (0.5～2.1)	2以下
	75%値 ^{注1}	1.7	1.5	1.3	1.3	1.2	
浮遊物質(SS)	mg/L	11 (3～27)	10 (3～35)	10 (3～22)	11 (2～40)	11 (3～42)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	10 (7.5～12)	9.8 (6.3～13)	9.8 (7.0～13)	10 (7.0～13)	9.9 (5.1～13)	7.5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	29,000 (1,300～ 130,000)	31,000 (790～ 130,000)	18,000 (790～ 130,000)	18,000 (2,200～ 79,000)	7,000 (490～ 14,000)	1,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

表3-1-2-10 公共用水域水質測定結果(神田橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：岩木川上流、地点名：神田橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.0005	—	—	0.01以下
全シアン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	—	—	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.01以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	—	—	0.05以下
砒素	mg/L	0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.001	0.01以下
総水銀		<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	0.0005以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

6) 車力橋

車力橋における過去5年間の公共用水域水質測定結果を表3-1-2-11～表3-1-2-12にそれぞれ示す。

生活環境項目の水素イオン濃度(pH)、浮遊物質(S S)、溶存酸素(D O)の年平均値は過去5年間、環境基準値を満足し、生物化学的酸素要求量(B O D)の75%値、及び大腸菌群数は過去5年間、超過している。

健康項目は一部の項目で水質測定が行われており、環境基準値を満足している。

表3-1-2-11 公共用水域水質測定結果(車力橋・生活環境項目)

《生活環境項目》

水域名：山田川、地点名：車力橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値 (日平均値の範囲)					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
水素イオン濃度(pH)	—	7.6 (7.2～8.3)	7.4 (7.0～8.9)	7.1 (6.7～7.4)	7.5 (7.0～8.3)	7.2 (6.8～7.5)	6.5以上 8.5以下
生物化学的 酸素要求量 (BOD)	平均値	3.1 (1.3～5.8)	3.1 (1.0～6.9)	2.2 (1.0～3.7)	3.9 (1.2～7.4)	2.9 (1.5～5.3)	2以下
	75%値 ^{注1}	3.7	3.6	2.8	5.3	3.3	
浮遊物質(SS)	mg/L	20 (11～36)	15 (8～21)	18 (8～45)	17 (4～32)	20 (9～43)	25以下
溶存酸素量(DO)	mg/L	10 (7.7～13)	9.7 (7.5～13)	8.4 (5.1～12)	11 (9.3～13)	9.7 (8.0～14)	7.5以上
大腸菌群数	MPN /100mL	16,000 (3,300～ 35,000)	8,800 (7,000～ 11,000)	29,000 (330～ 170,000)	6,300 (790～ 13,000)	11,000 (1,300～ 33,000)	1,000以下

注1) 75%値：年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順にならべ、

[0.75×日間平均値のデータ数] 番目のデータ値

注2) 生活環境項目の2段に表示されているものは、上段が平均値、下段のカッコ内が測定値の範囲

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

表3-1-2-12 公共用水域水質測定結果(車力橋・健康項目)

《健康項目》

水域名：山田川、地点名：車力橋、類型：A

測定項目	単位	測定年度の年平均値					環境 基準値
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	
硝酸性窒素	mg/L	0.82	0.35	0.76	0.52	—	—
亜硝酸性窒素	mg/L	0.023	0.013	0.018	0.016	—	—
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.83	0.36	0.77	0.52	0.62	10以下

出典：公共用水域及び地下水の水質測定結果(平成20年度～平成24年度 青森県)

3.1.3 土壌及び地盤の状況

(1) 土壌の状況

対象事業実施区域及びその周辺の土壌分類を図 3-1-3-1 に、土壌分類の凡例を図 3-1-3-2 にそれぞれ示す。

対象事業実施区域の土壌は全て山地、丘陵地及び台地の土壌であり、岩石地（Rockyland）、乾性褐色森林土壌（Tku）、褐色森林土壌（Kar）、褐色森林土壌（黄褐色系六郷統）（Rok）、湿性褐色森林土壌（Tog）で構成されている。

(2) 地盤の状況

地下水位の低下及び地盤沈下は、対象事業実施区域の位置する中泊町では調査を実施していない。しかし、「第 4 回 青森の水健全化委員会資料(平成 19 年 3 月)」によれば、中泊町の南側に位置する五所川原市街と弘前市街にかけての津軽平野では、地下水位の低下及び地盤沈下が観測されている。

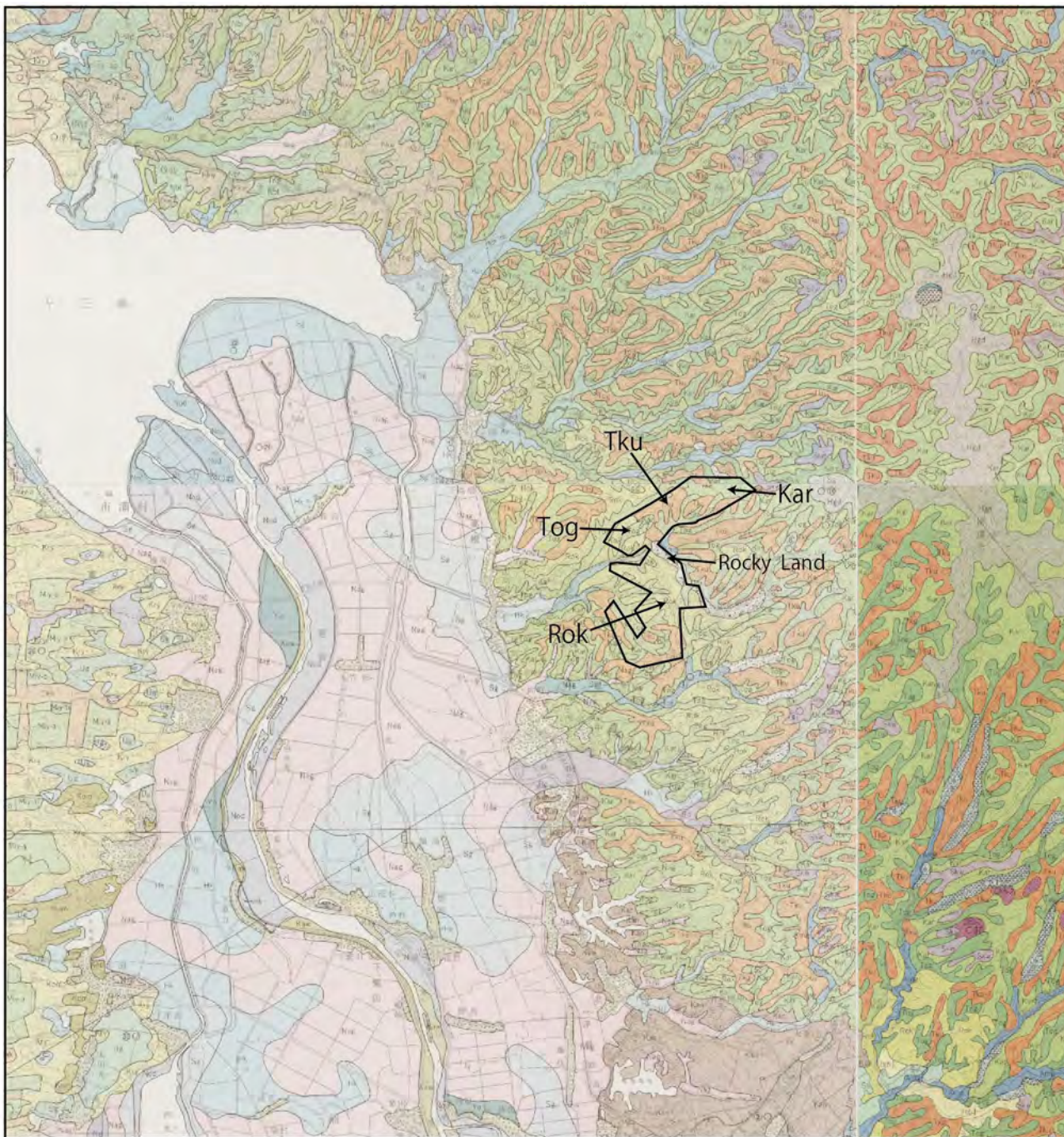
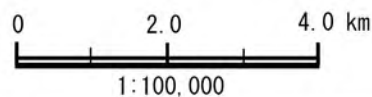


図 3-1-3-1 土壤分類

凡 例


○ : 対象事業実施区域


出典: 「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)
 「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
 「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)
 「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)





山地および丘陵地の土壌
Mountain and hill land soils


岩石地
Rocky land



粗粒残積性未熟土壌
Residual immature soils (coarse text)
 Amg 阿弥陀川統
Amidagawa


黒ボク土壌
Ando soils
 Imi 岩見統
Iwami

淡色黒ボク土壌
Pale ando soils
 Kan 金木統
Kanaki


乾性褐色森林土壌
Brown forest soils (dry)
 Tku 土筆森山統
Tsukushimoriyama

褐色森林土壌
Brown forest soils
 Kar 空沼統
Karanuma

褐色森林土壌 (黄褐色系)
Brown forest soils (yellow brown)
 Rok 六郷統
Rokugo

湿性褐色森林土壌
Brown forest soils (wet)
 Tog 戸ヶ沢統
Togasawa

 Ush 後潟統
Ushirogata


乾性ポドゾル化土壌
Podzolic soils (dry)
 Skw 砂川統
Sunakawa

湿性ポドゾル化土壌
Podzolic soils (wet)
 Hgd 袴腰岳統
Hakamagoshidake


平地の土壌
lowland soils

細粒灰色低地土壌
Gray lowland soils (fine textured)
 Ky 川除統
Kawayoke

灰色低地土壌
Gray lowland soils
 Tn 高根統
Takane

粗粒灰色低地土壌
Gray lowland soils (coarse textured)
 Kaw 川原統
Kawahara

 Ss 杉沢統
Sugisawa

細粒グライ土壌
Gley soils (fine textured)
 Hk 運川統
Hasukawa


 Rd 蓮華田統
Rengeda

グライ土壌
Gley soils
 Sun 砂子瀬統
Sunakose


 Ump 内真部統
Uchimampe

粗粒グライ土壌
Gley soils (coarse textured)
 Sg 再賀統
Saiga


 Nod 野田統
Noda

低位泥炭土壌
Peat soils (low moor)
 Nag 長富統
Nagatomi

 Yo 夕ヶ丘統
Yuhigaoka

黒泥土壌
Muck soils
 Kud 蔵館統
Kuradate

屏風山地域の土壌
Biyoubuyama dune area soils


砂丘未熟土壌
Sand dune rego soils
 Kry 栗山統
Kuriyama


 Dek 出来島統
Dekisima

 Miy-a 三吉山-a統
Miyoshiyama-a

 Miy-b 三吉山-b統
Miyoshiyama-b

黒ボク土壌
Ando soils
 Mar 丸山統
Maruyama

淡色黒ボク土壌
Pale ando soils
 Kom 駒田統
Komada

粗粒グライ土壌
Gley soils (coarse textured)
 Ug 牛潟統
Ushigata


低位泥炭土壌
Peat soils (low moor)
 Noz 野崎統
Nozaki

その他
Miscellaneous

 砂浜
Beach

 裸地砂丘
Bare sand dune

 沼沢地
Swamp land

 人工改変地
Artificially deformed area

 市街地
Urban area

統の界線
Boundary

○ ⑧ 試坑点位置及び番号
Locality and number of pit

3.1.4 地形及び地質の状況

(1) 地形の状況

対象事業実施区域及びその周辺の地形分類を図 3-1-4-1 に、地形分類の凡例を図 3-1-4-2 にそれぞれ示す。

対象事業実施区域の地形は、主に山地の緩斜面及び一般斜面で構成されており、一部に急崖がみられる。

(2) 地質の状況

対象事業実施区域及びその周辺の表層地質を図 3-1-4-3 に、表層地質の凡例を図 3-1-4-4 にそれぞれ示す。

対象事業実施区域の地質は、軽石質凝灰岩、珪藻質泥岩・砂岩、流紋岩で構成されている。

なお、「日本の地形レッドデータブック第 1 集 新装版」(古今書院 1994 年)によると、対象事業実施区域には、重要な地形・地質は報告されていない。

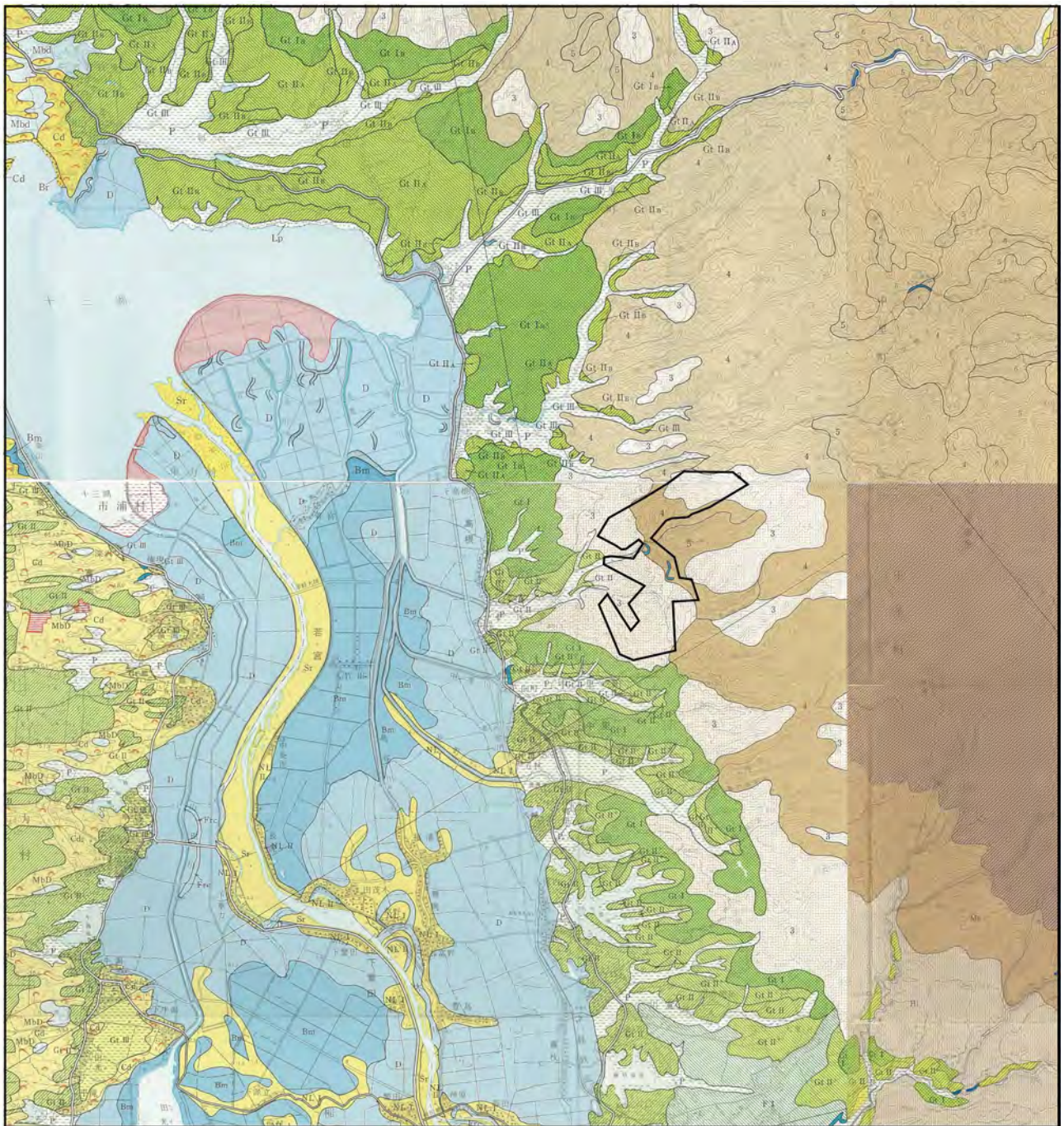
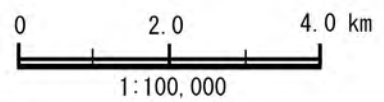


図 3-1-4-1 地形分類

凡 例

○ :対象事業実施区域

出典:「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)
 「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
 「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)
 「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)



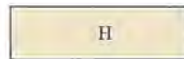
凡 例 LEGEND

山地 MOUNTAINS

- 緩斜面
Gentle sloping
- 一般斜面
General slope on mountains

傾斜区分	2	3	4	5	6
		3			
			4	5	

丘陵地 HILL LANDS



台地・段丘 UPLANDS, TERRACE

高位面 (I面) Upper surface	砂礫台地 (高位) Gravel terrace (Upper)(I)	
中位面 (II面) Middle surface	II+面 砂礫台地 (中位) Gravel terrace (Middle)(II+)	
	II面 砂礫台地 (中位) Gravel terrace (Middle)(II)	
低位面 (III面) Lower surface	砂礫台地 (低位) Gravel terrace (Lower)(III)	

低地 LOWLANDS

	扇状地 Fan	I面 扇状地 (高位) Fan (Upper) I		砂質海岸 Sands tone coastal
		II面 扇状地 (低位) Fan (Lower) II		砂丘間湿地 Marsh between dune
	谷底平野 Valley plain			旧河道 Former river course
	三角洲 Delta			急崖 Cliff
	後背湿地 Back marsh			干拓地 Reclaimed land
	被覆砂丘 Sand dune covered with vegetation			人工平坦地 Artificially flattened area
	裸出砂丘 Naked dune		—	地形界 Boundary of landform
	自然堤防 Natural levee	I面	==	国道 National road
		II面	==	主要地方道 Main local road
	河原 Dry river-bed			

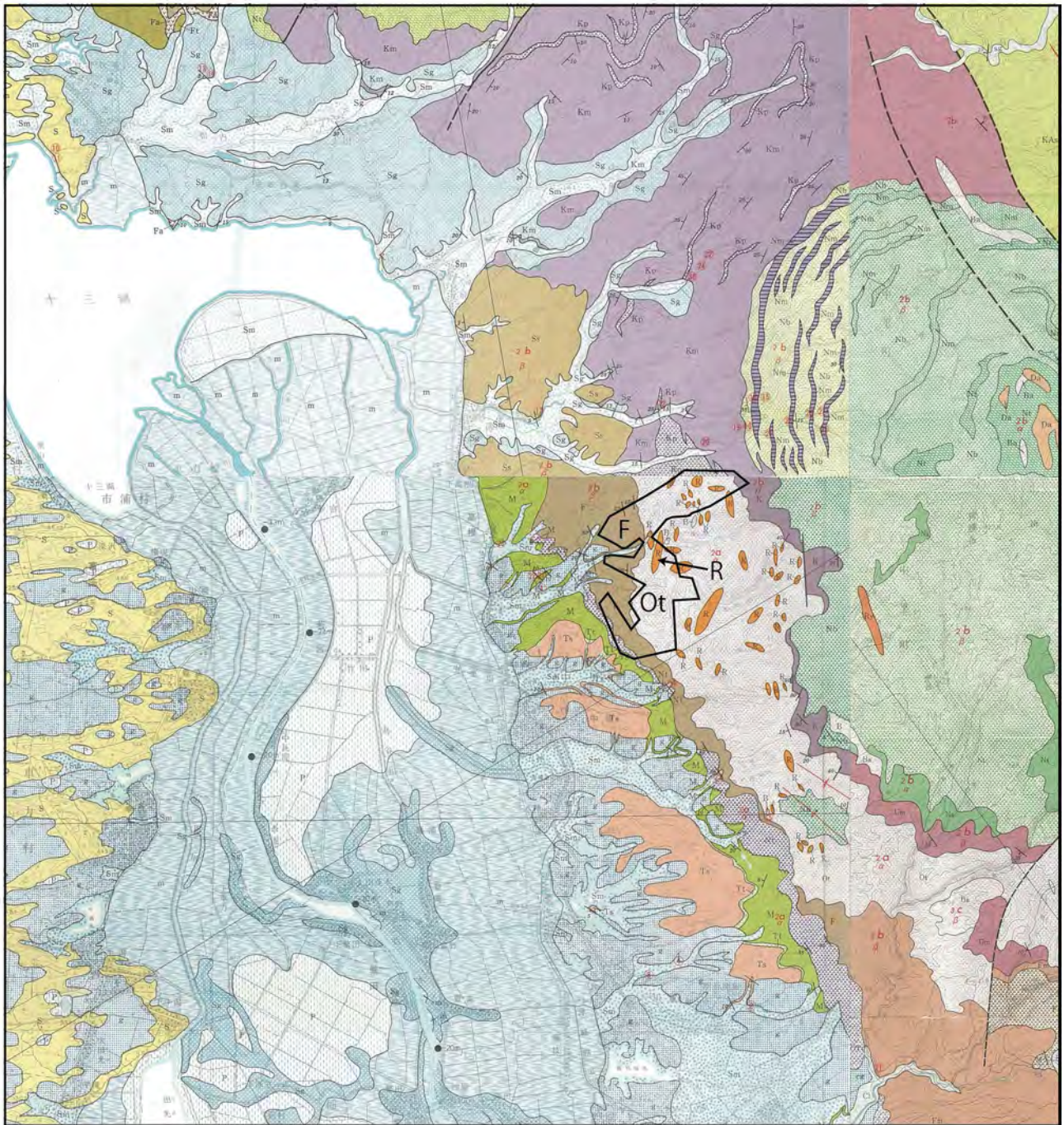
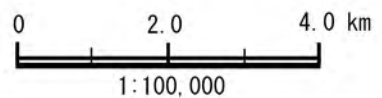


図 3-1-4-3 表層地質

凡 例

○ : 対象事業実施区域

出典: 「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)
 「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
 「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)
 「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)





出典:「土地分類基本調査 金木」(青森県 1994年)

図 3-1-4-4 表層地質凡例

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

(1) 動物の生息の状況

1) 哺乳類

文献調査により生息の情報が得られた哺乳類は 7 目 11 科 18 種であった。文献調査における哺乳類確認種一覧を表 3-1-5-1 に示す。

文献調査により確認された哺乳類 18 種のうち、表 3-1-5-1 に示す重要種の選定基準に該当したのは、ニホンザル、モモンガ、ムササビ、ヤマネ、カモシカの 5 種である。

表 3-1-5-1 文献調査哺乳類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献				
			I	II	III	IV	文献 1	文献 2	文献 3	文献 4	文献 5
モグラ	トガリネズミ	ジネズミ							●		
	モグラ	ヒミズ									●
		アズマモグラ							●		●
コウモリ	不明	コウモリ目の一種							●		
サル	オナガザル	ニホンザル			LP	LP	●	●		●	●
ウサギ	ウサギ	ノウサギ					●			●	●
ネズミ	リス	ニホンリス					●				●
		モモンガ				C					●
		ムササビ				C					●
	ヤマネ	ヤマネ	天			C					●
	ネズミ	ハタネズミ								●	
		ハツカネズミ									●
ネコ	イヌ	タヌキ					●	●		●	●
		キツネ					●	●	●	●	
	イタチ	テン					●			●	●
		イタチ							●	●	●
		アナグマ					●	●			●
ウシ	ウシ	カモシカ	特				●	●		●	●
7 目	11 科	18 種	2 種	0 種	1 種	4 種	8 種	5 種	6 種	7 種	14 種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」

(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 コウモリ目の科名、種名は、種が特定できないため、1科、あるいは1種として扱った。

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I : 「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

特: 国指定特別天然記念物 天: 国指定天然記念物

II : 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)

国際: 国際希少野生動植物種 国内: 国内希少野生動植物種

III : 「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR: 絶滅危惧 I A 類 EN: 絶滅危惧 I B 類 VU: 絶滅危惧 II 類

NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

IV : 「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(2010 年 3 月 青森県)

EX: 絶滅野生生物 A: 最重要希少野生生物 B: 重要希少野生生物 C: 希少野生生物

D: 要調査野生生物 LP: 地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献 1: 「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 2: 「第 6 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 3: 「河川水辺の国勢調査 平成 14 年岩木川両生類・爬虫類・哺乳類」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献 4: 「市町村別鳥獣生息状況調査報告書」(平成元年 青森県自然保護課)

文献 5: 「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

2) 鳥類

文献調査により生息の情報が得られた鳥類は 16 目 42 科 167 種であった。文献調査における鳥類確認種一覧を表 3-1-5-2(1)～(3)に示す。

文献調査により確認された鳥類のうち、表 3-1-5-2(1)～(3)に示す重要種の選定基準に該当したのは、マガン、オオヨシゴイ、クマタカ、オオセッカなど 59 種である。また、環境省の「ガンカモ類の生息調査」(2009～2013)では、十三湖でハクチョウ類、ガン類、カモ類の飛来(中継地)が報告されている。

表 3-1-5-2(1) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
キジ	キジ	ウズラ			VU				●	
		ヤマドリ				C		●	●	
		キジ							●	
カモ	カモ	ヒシクイ	国天		VU	C			●	
		マガン	国天		NT	C			●	
		コハクチョウ							●	
		オオハクチョウ						●	●	
		オシドリ			DD				●	
		オカヨシガモ				C		●		
		ヨシガモ				C			●	
		ヒドリガモ							●	
		マガモ					●	●	●	
		カルガモ					●	●	●	
		ハシビロガモ				C			●	
		オナガガモ							●	
		シマアジ				C			●	
		トモエガモ			VU	C			●	
		コガモ						●	●	
		ホシハジロ							●	
		キンクロハジロ						●	●	
		スズガモ							●	
		ミコアイサ						●		
		カワアイサ						●	●	
ウミアイサ							●			
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ					●		●	
		カンムリカイツブリ			LP	C	●			
ハト	ハト	キジバト					●	●	●	
		アオバト				C	●		●	
カツオドリ	ウ	カワウ						●		
		ウミウ						●		
ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	B	●		●	
		オオヨシゴイ			CR	A			●	
		ゴイサギ					●	●	●	
		アマサギ							●	
		アオサギ						●	●	
		ダイサギ						●	●	
		チュウサギ			NT				●	
	コサギ							●		
トキ	ヘラサギ			DD			●			
ツル	クイナ	クイナ				B			●	
		ヒメクイナ				A			●	
		ヒクイナ			NT	A			●	
		バン				C	●		●	
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ				C			●	
		ホトトギス							●	
		ツツドリ							●	
		カッコウ						●	●	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	B		●		
チドリ	チドリ	タゲリ				C			●	
		ケリ			DD	B	●		●	
		ムナグロ							●	
		ダイゼン							●	
		イカルチドリ				B			●	
		コチドリ							●	

表 3-1-5-2(2) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
チドリ	チドリ	シロチドリ			VU				●	
		メダイチドリ							●	
	シギ	ヤマシギ				B			●	
		タシギ						●	●	
		ツルシギ			VU				●	
		アオアシシギ							●	
		クサシギ						●	●	
		タカブシギ			VU				●	
		イソシギ							●	
		ヒバリシギ				C			●	
	カモメ	アカエリヒレアシシギ							●	
		ユリカモメ						●	●	
		ウミネコ						●	●	
		カモメ							●	
		セグロカモメ						●	●	
		オオセグロカモメ						●	●	
		コアシサシ		国際	VU	A			●	
アジサシ							●			
タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	B			●	
	タカ	ハチクマ			NT	C			●	
		トビ					●	●	●	●
		オジロワシ	国天	国内	VU	B			●	
		オオワシ	国天	国内	VU	B			●	
		チュウヒ			NT	B			●	
		ハイイロチュウヒ				B			●	
		ツミ				B			●	
		ハイタカ			NT	B			●	
		オオタカ		国内	NT	B			●	
		ノスリ						●	●	●
		ケアシノスリ				B			●	
		クマタカ		国内	EN	A			●	
		フクロウ	フクロウ	コノハズク				A		
フクロウ						C			●	
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ					●	●	●	
		ヤマセミ				C			●	
キツツキ	キツツキ	コゲラ					●		●	
		オオアカゲラ				C			●	
		アカゲラ					●		●	
		アオゲラ					●		●	
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				C			●	
		コチョウゲンボウ				C		●	●	
		ハヤブサ		国内	VU	B			●	●
スズメ	サンショウクイモズ	サンショウクイ			VU	B			●	
		モズ					●	●	●	
		アカモズ			EN	A	●			
	カラス	カケス					●		●	
		コクマルガラス						●		
		ミヤマガラス						●		
		ハシボソガラス					●	●	●	
		ハシブトガラス					●	●	●	
	キクイタダキ	シジュウカラ	キクイタダキ						●	
			コガラ						●	
	ヒバリ	ツバメ	ヤマガラ					●		●
			ヒガラ					●		●
			シジュウカラ					●	●	●
	ヒヨドリ	ウグイス	ヒヨドリ					●	●	●
			ウグイス					●		●
			ヤブサメ					●		●
	エナガ	ムシクイ	エナガ					●		●
			メボソムシクイ							●
			エゾムシクイ					●		●
			センダイムシクイ					●		●

表 3-1-5-2(3) 文献調査鳥類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献			
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4
スズメ	センニュウ	オオセッカ		国内	EN	A	●		●	
		ヨシキリ	オオヨシキリ					●	●	●
		コヨシキリ					●	●	●	
	レンジャク	キレンジャク							●	
		ヒレンジャク							●	
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ							●	
	ミソサザイ	ミソサザイ					●		●	
	ムクドリ	ムクドリ					●	●	●	●
		コムクドリ							●	
	カワガラス	カワガラス					●		●	
	ヒタキ	マミジロ				C			●	
		トラツグミ							●	
		クロツグミ				C			●	●
		アカハラ					●		●	
		ツグミ						●	●	●
		コルリ					●		●	
		ルリビタキ								●
		ノビタキ							●	
		エゾビタキ								●
		サメビタキ								●
		コサメビタキ								●
		キビタキ						●		●
		オオルリ						●		●
		スズメ	ニュウナイスズメ							●
		スズメ					●	●	●	
	セキレイ	キセキレイ					●		●	
		ハクセキレイ					●	●	●	
		セグロセキレイ				C			●	
		ビンズイ							●	
		タヒバリ							●	
	アトリ	アトリ							●	
		カワラヒワ					●	●	●	
		マヒワ							●	
		ベニヒワ							●	
		ベニマシコ							●	
		イスカ				D	●			
		ウソ							●	●
		シメ					●		●	
		イカル							●	●
	ホオジロ	ホオジロ					●	●	●	●
		ホオアカ					●	●	●	
		カシラダカ						●	●	
ミヤマホオジロ								●		
ノジコ				NT	C			●		
アオジ						●	●	●		
コジュリン				VU	B	●		●		
オオジュリン					B		●	●		
16目	42科	167種	4種	7種	31種	52種	50種	48種	153種	36種

※1 分類、配列などは「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に準拠

※2 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第4次レッドリストの公表について」(平成24年8月28日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物—青森県レッドデータブック(2010年改訂版)—」(2010年3月 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※3 使用文献は以下のとおり

文献1:「第6回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献2:「河川水辺の国勢調査 平成15年岩木川鳥類」のうち、津軽大橋における確認種

(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献3:「市町村別鳥獣生息状況調査報告書」(平成元年 青森県自然保護課)

文献4:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

3) 両生類・爬虫類

文献調査により生息の情報が得られた両生類は2目6科11種、爬虫類は1目3科5種であった。文献調査における両生類・爬虫類確認種一覧を表3-1-5-3に示す。

文献調査により確認された両生類・爬虫類のうち、表3-1-5-3に示す重要種の選定基準に該当したのは、クロサンショウウオ、アカハライモリ、トノサマガエル、カジカガエルの4種である。

表3-1-5-3 文献調査両生類・爬虫類確認種一覧

綱名	目名	科名	種名	重要種選定基準				文献				
				I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3		
両生綱	有尾目	サンショウウオ	クロサンショウウオ			NT	C	●				
			ハコネサンショウウオ							●		
			サンショウウオ類							○		
		イモリ	アカハライモリ			NT	C			●		
	無尾目	ヒキガエル	アズマヒキガエル					●	●	●		
			アマガエル	ニホンアマガエル						●	●	
			アカガエル	タゴガエル					●			
				ヤマアカガエル					●			
			トノサマガエル			NT				●	●	
			ツチガエル								●	
			アオガエル	モリアオガエル								●
				カジカガエル						D		●
	2目		6科	11種	0種	0種	3種	3種	4種	3種	8種	
	爬虫綱	有鱗目	カナヘビ	ニホンカナヘビ					●			
ナミヘビ				シマヘビ							●	
			ジムグリ								●	
			ヤマカガシ								●	
クサリヘビ			ニホンマムシ								●	
1目		3科	5種	0種	0種	0種	0種	1種	0種	4種		

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成24年度生物リストー」(平成24年 国土交通省)に準拠

※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和25年5月30日 法律第214号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日 法律第75号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第4次レッドリストの公表について」(平成24年8月28日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010年改訂版)ー」(2010年3月 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献1:「第5回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献2:「河川水辺の国勢調査 平成14年岩木川両生類・爬虫類・哺乳類」のうち、津軽大橋における確認種 (水情報国土データ管理センターホームページ)

文献3:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

4) 昆虫類等

文献調査により生息の情報が得られた昆虫類等（昆虫類及びクモ類）は11目111科355種であった。文献調査における昆虫類等確認種一覧を表3-1-5-4(1)～(6)に示す。

文献調査により確認された昆虫類等のうち、表3-1-5-4(1)～(6)に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヒメシロチョウやアカガネオサムシ等24種である。

表3-1-5-4(1) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
クモ	ヒメグモ	Anelosimus属の一種						●
		ヤマトコノハグモ						●
	サラグモ	ダイセツテナガグモ						●
		ノコギリヒザグモ						●
		ニセアカムネグモ						●
		セムシアカムネグモ						●
		クロナンキングモ						●
		ヤガスリサラグモ						●
		コトガリアカムネグモ						●
		トガリアカムネグモ						●
		サラグモ科の一種						○
		アシナガグモ	トガリアシナガグモ					
	ハラビロアシナガグモ							●
	アシナガグモ							●
	ウロコアシナガグモ							●
	Tetragnatha属の一種							○
	コガネグモ	オニグモ						●
		Araneus属の一種						○
		Cyclosa属の一種						●
		Larinia属の一種						●
		ナカムラオニグモ						●
		Neoscona属の一種						●
		ズグロオニグモ						●
		コガネグモ科の一種						○
	コモリグモ	Alopecosa属の一種						●
		エビチャコモリグモ						●
		Arctosa属の一種						○
		イナダハリゲコモリグモ						●
		ウヅキコモリグモ						●
		Pardosa属の一種						○
		ハテコモリグモ						●
		イモコモリグモ						●
		チビコモリグモ						●
		キバラコモリグモ						●
		コガタコモリグモ						●
		Pirata属の一種						○
		アライトコモリグモ						●
		Trochosa属の一種						○
	シボグモ	シボグモ						●
	タナグモ	Agelena属の一種						●
		ヒメクサグモ						●
	フクログモ	ヤマトコマチグモ						●
		Cheiracanthium属の一種						○
		ハマキフクログモ						●
		ヒメフクログモ						●
		Clubiona属の一種						○
	ワシグモ	トラフワシグモ						●
		チクニヨリメケムリグモ						●
		メキリグモ						●
		ワシグモ科の一種						○
	エビグモ	Philodromus属の一種						●
		ヤマトヤドカリグモ						●
Thanatus属の一種							○	

表 3-1-5-4(2) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献		
			I	II	III	IV	文献1	文献2	
クモ	カニグモ	ハナグモ						●	
		ワカバグモ						●	
		Ozyptila属の一種						●	
		トラフカニグモ						●	
		クロボシカニグモ						●	
		オオヤマイロカニグモ						●	
	ハエトリグモ	ネコハエトリ						●	
		シッチハエトリ						●	
		ウスリーハエトリ						●	
		マガネアサヒハエトリ						●	
		メガネアサヒハエトリ						●	
		Rhene属の一種						●	
	ハエトリグモ科の一種						○		
トンボ	イトトンボ	モートンイトトンボ			NT	C	●		
	カワトンボ	ミヤマカワトンボ					●		
		ヒガシカワトンボ						●	
	ムカシトンボ	ムカシトンボ					●		
	ヤンマ	アオヤンマ			NT		●		
		ルリボシヤンマ					●		
		オオルリボシヤンマ					●		
		ギンヤンマ					●		
		コシボソヤンマ				B	●		
		ミルンヤンマ					●		
	サナエトンボ	モイワサナエ					●		
		コオニヤンマ					●		
		ヒメサナエ				A	●		
		コサナエ					●		
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ					●		
	オニヤンマ	オニヤンマ					●		
	エゾトンボ	コヤマトンボ				C	●		
		タカネトンボ					●		
	トンボ	ハラビロトンボ				C	●		
		シオカラトンボ					●		
		オオシオカラトンボ				C	●		
		ナツアカネ					●	●	
		マユタテアカネ					●	●	
		アキアカネ					●	●	
		ノシメトンボ					●	●	
		マイコアカネ				B		●	
						DD	B		●
カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ					●		
ハサミムシ	マルムネハサミムシ	マルムネハサミムシ科の一種					●		
バッタ	ツユムシ	セスジツユムシ						●	
		ツユムシ						●	
	キリギリス	ウスイロササキリ						●	
		ホシササキリ						●	
		ヒメクサキリ						●	
	ケラ	ケラ						●	
	マツムシ	カンタン						●	
	コオロギ	タンボオカメコオロギ						●	
		エンマコオロギ						●	
	ヒバリモドキ	シバズ						●	
		ヤチズ						●	
		エゾズ						●	
	バッタ	ヒナバッタ						●	
	イナゴ	コバネイナゴ						●	
	オンブバッタ	オンブバッタ						●	
	ヒシバッタ	ヒメヒシバッタ						●	
		Tetrix属の一種							○
	カメムシ	コガシラウンカ	アカフコガシラウンカ						●
		ヒシウンカ	ヒシウンカ						●
		ウンカ	ゴマフウンカ						●
タテヤマヨシウンカ								●	
クロスジオウンカ								●	
セミ		アブラゼミ					●		
		ニイニイゼミ					●		
	エゾゼミ					●			

表 3-1-5-4(3) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
カメムシ	アワフキムシ ヨコバイ	ハマベアワフキ						●
		ツマグロオオヨコバイ						●
		オオヨコバイ						●
		トガリヨコバイ						●
	ハナカメムシ	ツヤヒメハナカメムシ						●
		Orius属の一種						○
	カスミカメムシ	ナカグロカスミカメ						●
		Apolygus属の一種						●
		モンキマキバカスミカメ						●
		フタトゲムギカスミカメ						●
	ナガカメムシ	Cymus属の一種						●
		ニッポンコバネナガカメムシ						●
		コバネナガカメムシ						●
		ホソメダカナガカメムシ						●
		ヒラタヒョウタンナガカメムシ						●
		ジュウジナガカメムシ						●
	ツノカメムシ	セアカツノカメムシ						●
		ヒメツノカメムシ						●
	カメムシ	ブチヒゲカメムシ						●
		ナガメ						●
		オオトゲシラホシカメムシ						●
		ヒメクロカメムシ						●
	アメンボ	アメンボ					●	
		ヒメアメンボ					●	●
	コオイムシ	コオイムシ			NT	C	●	
	タイコウチ	ミズカマキリ					●	
		ヒメミズカマキリ					●	
マツモムシ	マツモムシ					●		
トビケラ	エグリトビケラ	エグリトビケラ科の一種						●
チョウ	ボクトウガ セセリチョウ	ヒメボクトウ						●
		ヒメキマダラセセリ					●	
		コキマダラセセリ					●	
		イチモンジセセリ					●	
		オオチャバネセセリ				C	●	
		コチャバネセセリ					●	
		スジグロチャバネセセリ			NT	C	●	
	シジミチョウ	ルリシジミ					●	●
		ツバメシジミ					●	●
		ベニシジミ					●	●
		ゴマシジミ				注1	C	●
		ミドリシジミ					●	
		カラスシジミ					●	
		コムラサキ					●	
		サカハチチョウ					●	
	タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン					●	●
		ヒメアカタテハ					●	
		メスグロヒョウモン					●	
		ウラギンヒョウモン					●	
		クジャクチョウ					●	
		ルリタテハ					●	
		イチモンジチョウ					●	
		シータテハ					●	
		キタテハ					●	●
		アカタテハ					●	●
	アゲハチョウ	カラスアゲハ					●	
		キアゲハ					●	●
オナガアゲハ						●		
シロチョウ	モンキチョウ					●	●	
	ヒメシロチョウ			EN	C	●		
	スジグロシロチョウ					●		
	エゾスジグロシロチョウ					●		
	モンシロチョウ					●	●	
ジャノメチョウ	キマダラモドキ			NT		●		
	クロヒカゲ					●		
	ジャノメチョウ					●		
	ヒメジャノメ					●	●	

表 3-1-5-4(4) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
チョウ	ジャノメチョウ	ヤマキマダラヒカゲ					●	
		オオヒカゲ					●	
		ヒメウラナミジャノメ					●	
		ヒメキマダラヒカゲ					●	
	ツトガ	コブノメイガ						●
		ヘリキスジノメイガ						●
	ヤママユガ	オオミズアオ					●	
	ヒトリガ	シロヒトリ						●
	ヤガ	クロクモヤガ						●
		ナカスジキョトウ						●
		フタオビコヤガ						●
		ヨシヨトウ						●
ハエ	ガガンボ	<i>Nephrotoma hirsuticauda</i>						●
		Nephrotoma属の一種						○
		<i>Styringomyia nipponensis</i>						●
	ムシヒキアブ	アオメアブ						●
		ヒサマツムシヒキ						●
	ハナアブ	ハナダカマガリモンハナアブ						●
		Anasimyia属の一種						○
		ホソヒラタアブ						●
		タテジマクロハナアブ						●
		フタホソヒラタアブ						●
		Melanostoma属の一種						●
		シマアシフトハナアブ						●
		カルマイツヤタマヒラタアブ						●
		キアシマメヒラタアブ						●
		オオハナアブ						●
		アシフトヒラアシヒラタアブ						●
		ハナナガモモフトコハナアブ						●
		ホソヒメヒラタアブ						●
	キタヒメヒラタアブ						●	
	モモフトコハナアブ						●	
	ミギワバエ	<i>Brachydeutera ibari</i>						●
		ワタナベトゲミギワバエ						●
		Notiphila属の一種						○
		<i>Psilopa flaviantennalis</i>						●
		<i>Psilopa polita</i>						●
	マルズヤセバエ	キアシアシナガヤセバエ						●
	ヤチバエ	<i>Pherbellia nana reticulata</i>						●
		マダラヤチバエ						●
		ヒゲナガヤチバエ						●
	ミバエ	オオセンダングサミバエ						●
		<i>Tephritis separata</i>						●
		キイロケブカミバエ						●
	クロバエ	コガネキンバエ						●
		ミドリキンバエ						●
		ヒロズキンバエ						●
		<i>Pollenia argenticincta</i>						●
	イエバエ	ツマクロキンバエ						●
		マンシュウハナレメイエバエ						●
		ヤマトハナレメイエバエ						●
		アシマダラハナレメイエバエ						●
		カガハナゲバエ						●
		トーヨーカトリバエ						●
		Phaonia属の一種						●
	イエバエ科の一種						○	
	ニクバエ	カワユニクバエ						●
		ニクバエ科の一種						○
	コウチュウ	ホソクビゴミムシ オサムシ	ミイデラゴミムシ					
キイロチビゴモクムシ								●
Amara属の一種								●
ホシボシゴミムシ								●
ゴミムシ								●
メダカチビカワゴミムシ								●
アカガネオサムシ				VU		●		

表 3-1-5-4(5) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献	
			I	II	III	IV	文献1	文献2
コウチュウ	オサムシ	アカガネアオゴミムシ						●
		アオゴミムシ						●
		ミズギワアトキリゴミムシ						●
		セアカヒラタゴミムシ						●
		トックリゴミムシ						●
		コルリアトキリゴミムシ						●
		オオゴミムシ						●
		オオキンナガゴミムシ						●
		Pterostichus属の一種						○
		ヨツモンコムズギワゴミムシ						●
	ハンミョウ	ニワハンミョウ					●	●
		コニワハンミョウ					●	
		エリザハンミョウ				B	●	
	ゲンゴロウ	クロズマメゲンゴロウ						●
		シマケシゲンゴロウ					●	
		チビゲンゴロウ					●	
		ナガケシゲンゴロウ				C	●	
		ケシゲンゴロウ			NT		●	
		キベリクロヒメゲンゴロウ			NT			●
ツブゲンゴロウ						●		
チャイロシマチビゲンゴロウ						●		
オオヒメゲンゴロウ							●	
ヒメゲンゴロウ							●	
コガシラミズムシ	コガシラミズムシ						●	
コツブゲンゴロウ	ヒゲブトコツブゲンゴロウ				D	●		
ガムシ	ゴマフガムシ						●	
	ヒメセマルガムシ						●	
	キイロヒラタガムシ						●	
	ガムシ			NT			●	
	ガムシ科の一種						○	
ハネカクシ	ハネカクシ科の一種						●	
マルハナノミ	Cyphon属の一種						●	
	トビイロマルハナノミ						●	
クワガタムシ	スジクワガタ					●		
	コクワガタ					●		
	アカアシクワガタ					●		
	ノコギリクワガタ					●		
コガネムシ	ツヤコガネ						●	
	ヒメコガネ						●	
	セマダラコガネ						●	
	オオビロウドコガネ						●	
	ウスチャコガネ						●	
	マメコガネ						●	
コメツキムシ	サビキコリ						●	
	Ampedus属の一種						●	
	コガタクシコメツキ						●	
	Paracardiophorus属の一種						●	
	コメツキムシ科の一種						○	
ジョウカイボン	ムネアカフトジョウカイ						●	
	ミヤマクビアカジョウカイ						●	
ジョウカイモドキ	イシハラヒメジョウカイモドキ						●	
テントウムシ	カメノコテントウ						●	
	ナナホシテントウ						●	
	ナミテントウ						●	
	ジュウサンホシテントウ						●	
	ヒメカメノコテントウ						●	
	クロヘリヒメテントウ						●	
	テントウムシ科の一種						○	
	キスイムシ	Atomaria属の一種						●
オオキスイムシ	ヨツボシオオキスイ						●	
ヒメマキムシ	ヒメマキムシ科の一種						●	
ケシキスイ	クロハナケシキスイ						●	
	ヨツボシケシキスイ						●	
	Meligethes属の一種						●	
	ケシキスイ科の一種						○	
カミキリモドキ	キイロカミキリモドキ東日本亜種						●	

表 3-1-5-4(6) 文献調査昆虫類等確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献				
			I	II	III	IV	文献1	文献2			
コウチュウ	ハナノミダマシ	クロフナガタハナノミ						●			
		ゴミムシダマシ						●			
	カミキリムシ	スナゴミムシダマシ						●			
		カクスナゴミムシダマシ						●			
		ウスバカミキリ						●			
		カタカミナリハムシ						●			
	ハムシ	アカバナカミナリハムシ						●			
		Altica属の一種						○			
		アオバネサルハムシ						●			
		Bruchus属の一種						●			
		ハッカハムシ						●			
		オオルリハムシ			NT	C		●			
		ヤナギハムシ						●			
		スズキミドリトビハムシ						●			
		キアシチビツツハムシ						●			
		タテスジキツツハムシ						●			
		ニセセスジツツハムシ						●			
		イチゴハムシ						●			
		チュウジョウアシナガトビハムシ						●			
		ヨモギトビハムシ						●			
		カクムネチビトビハムシ						●			
		イネクビボソハムシ						●			
		ヤナギルリハムシ						●			
		ナトビハムシ						●			
		ダイコンナガスネトビハムシ						●			
		ミソハギハムシ						●			
	オトシブミ	ヒメクロオトシブミ						●			
		セアカヒメオトシブミ						●			
	ゾウムシ	ダイコンサルゾウムシ						●			
		ヤナギシリジロゾウムシ						●			
		アカイネゾウモドキ						●			
		コフキゾウムシ						●			
		Limnobaris albosparsa						●			
	イネゾウムシ	ヤナギノミゾウムシ					●				
	チビゾウムシ	クロイネゾウモドキ					●				
		ホソチビゾウムシ					●				
	ハチ	ハバチ	カブラハバチ						●		
			アシプトコバチ						●		
		マルハラコバチ	ルリマルハラコバチ						●		
		セイボウアリ	ホンドツヤセイボウ							●	
			クロヤマアリ							●	
			キイロケアリ							●	
			トビイロケアリ							●	
			カワラケアリ							●	
			トビイロシワアリ							●	
			ドロバチ	ケブカスジドロバチ							●
				フトカギチビドロバチ							●
ギングチバチ		イワタギングチ							●		
		クロタビギングチ							●		
		ヒメハヤバチ							●		
アリマキバチ		アシジロヨコバイバチ							●		
		ヒメイスカバチ							●		
		キアシマエダテバチ							●		
ミツバチ		セイヨウミツバチ						●			
ムカシハナバチ		オオムカシハナバチ							●		
		スミスメンハナバチ							●		
		ホソメンハナバチ							●		
		Hylaeus属の一種							○		
コハナバチ		アカガネコハナバチ							●		
		フタモンカタコハナバチ							●		
ハキリバチ		アルファルファハキリバチ							●		
		バラハキリバチ							●		
ケアシハナバチ		シロアシクサレダマバチ					C	●			
11目		111科	355種	0種	0種	13種	18種	88種	280種		

- ※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」
(平成 24 年 国土交通省)に準拠
- ※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない
- ※3 重要種の選定基準は以下のとおり
- I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物
 - II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
 - III:「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)
EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
 - IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(2010 年 3 月 青森県)
EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物
D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物
- ※4 使用文献は以下のとおり
- 文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)
 - 文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 20 年岩木川陸上昆虫類等」のうち、津軽大橋における確認種
(水情報国土データ管理センターホームページ)
- ※5 選定基準の注釈は以下のとおり
- 注 1)「ゴマシジミ北海道・東北亜種」に対し NT ランク指定がなされている。

5) 魚類

文献調査により生息の情報が得られた魚類は 9 目 18 科 59 種であった。文献調査における魚類確認種一覧を表 3-1-5-5 に示す。

文献調査により確認された魚類のうち、表 3-1-5-5 に示す重要種の選定基準に該当したのは、スナヤツメ北方種、エゾウグイ、カジカなど 19 種である。

表 3-1-5-5 文献調査魚類確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献1	文献2	文献3	文献4	
			I	II	III	IV					
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ北方種			VU	B				●	
		カワヤツメ				C				●	
コイ	コイ	コイ								●	
		コイ (飼育品種)						●			
		ゲンゴロウブナ			1B					●	
		ギンブナ					●	●		●	
		フナ属の一種						○	●		
		ヤリタナゴ				A				●	
		タナゴ属の一種			1B					●	
		タイリクバラタナゴ						●		●	
		オイカワ						●		●	
		アブラハヤ							●	●	
		マルタ			LP	D				●	
		エゾウグイ				C				●	
		ウグイ					●	●		●	
		ウグイ属の一種						○			
		モツゴ					●	●		●	
		ビワヒガイ						●			
		タモロコ						●		●	
		ゼゼラ			VU注1			●		●	
		カマツカ						●		●	
		ニゴイ						●		●	
		ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ			DD		●	●	●
				シマドジョウ					●		●
				エゾホトケドジョウ			1B				●
ナマズ	ギギ	ギギ					●		●		
	ナマズ	ナマズ					●		●		
サケ	キュウリウオ	ワカサギ					●	●	●		
	アユ	アユ					●	●	●		
	シラウオ	シラウオ						●			
	サケ	カワマス								●	
		アメマス					●			●	
		アメマス類					○		●		
		ニジマス								●	
		サケ					●			●	
サクラマス(ヤマメ)			NT注2		●			●			
ダツ	メダカ	メダカ類			NT注3	B注3		●			
トゲウオ	トゲウオ	イトヨ日本海型			LP	B注4	●		●		
		トミヨ属汽水型			NT	B			●		
		イバラトミヨ(エゾトミヨ)			VU	B			●		
カサゴ	カジカ	カジカ			EN・NT注5	B・C注5	●	●			
スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス						●			
	ヒイラギ	ヒイラギ						●			
	ボラ	ボラ						●			
		メナダ						●			
	ハゼ	シロウオ			VU	C	●				
		ミミズハゼ							●		
		スミウキゴリ					●				
		ウキゴリ						●	●		
		ピリンゴ					●	●	●		
		ジュズカケハゼ			NT注6		●		●		
		マハゼ						●			
		アシシロハゼ					●	●	●		
		トウヨシノボリ(型不明)						●			
		ヨシノボリ類					○		●		
	ヌマチチブ						●				
チチブ				D	●		●				
タイワンドジョウ	カムルチー					●		●			
カレイ	カレイ	ヌマガレイ				●	●				
9目	18科	59種	0種	0種	15種	12種	22種	25種	7種	42種	

- ※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」(平成 24 年 国土交通省)に準拠
- ※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない
- ※3 重要種の選定基準は以下のとおり
- I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)
 国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物
- II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)
 国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種
- III:「第 4 次レッドリストの公表について(汽水・淡水魚類)」(平成 25 年 2 月 1 日公表 環境省)
 EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類
 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
- IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(2010 年 3 月 青森県)
 EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物
 D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物
- ※4 使用文献は以下のとおり
- 文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)
 文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 19 年岩木川魚類」のうち、岩木川河口および長泥における確認種
 (水情報国土データ管理センターホームページ)
 文献 3:「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋
 文献 4:「青森県の淡水魚類相について」(淡水魚第 11 号抜粋 竹内他 1985 年)
- ※5 選定基準の注釈は以下のとおり
- 注1) 選定基準ⅢでVUランクに指定されているが、琵琶湖原産の種であることから国内外来種(日本国内で本来の分布域以外に持ち込まれた種)と考えられる。
- 注2) サクラマス(ヤマメ)としてNTランクに指定されている。
- 注3) メダカは現在、北日本集団および南日本集団に分類されており、選定基準Ⅲでは両種共にVUランクに、選定基準Ⅳでは北日本集団がBランクにそれぞれ指定されている。なお、本来の分布域をみると、青森県は全域が北日本集団の生息地となっている。
- 注4) イトヨ類にはイトヨ日本海型、イトヨ太平洋型、ハリヨが含まれており、選定基準Ⅲでは本州のイトヨ日本海型がLPランクに、ハリヨがCRランクに、選定基準Ⅳではイトヨ(日本海型、太平洋型の区分なし)がBランクにそれぞれ指定されている。
- 注5) カジカは現在、小卵型、中卵型、大卵型に分類されており、選定基準Ⅲでは小卵型および中卵型がENランクに、大卵型がNTランクに、選定基準Ⅳでは小卵型および中卵型がBランクに、大卵型がCランクに、それぞれ指定されている。
- 注6) ジュズカケハゼは現在、鳥海山周辺固有種、富山固有種、関東固有種、広域分布種に分類されており、選定基準Ⅲでは鳥海山周辺固有種および富山固有種がCRランクに、関東固有種がENランクに、広域分布種がNTランクにそれぞれ指定されている。

6) 底生動物

文献調査により生息の情報が得られた底生動物は 16 目 26 科 43 種であった。文献調査における底生動物確認種一覧を表 3-1-5-6 に示す。

文献調査により確認された底生動物のうち、表 3-1-5-6 に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヤマトシジミ及びガムシの 2 種である。

表 3-1-5-6 文献調査底生動物確認種一覧

目名	科名	種名	重要種選定基準				文献		
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3
ザラカイメン	タンスイカイメン	ヨワカイメン						●	
イシガイ	イシガイ	ドブガイ						●	
		イシガイ						●	
マルスダレガイ	シジミ	ヤマトシジミ			NT		●		
		Corbicula属の一種						○	
サシバゴカイ	ゴカイ	Hediste属の一種						●	
イトゴカイ	イトゴカイ	Notomastus属の一種						●	
オヨギミミズ	オヨギミミズ	オヨギミミズ科の一種						●	
イトミミズ	ミズミミズ	エラミミズ						●	
		Dero属の一種						●	
		Limnodrilus属の一種						●	
		Nais属の一種						●	
		ヨゴレミズミミズ						●	
		アカオビミズミミズ						●	
		ミズミミズ科の一種						○	
ヨコエビ	ユンボヨコエビ	ニッポンドロソコエビ						●	
ワラジムシ	ミズムシ	ミズムシ						●	
	コツブムシ	Gnorimosphaeroma属の一種						●	
アミ	アミ	イサザアミ						●	
エビ	テナガエビ	スジエビ						●	
	ヌマエビ	ヌマエビ							●
	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ科の一種							●
	モクズガニ	モクズガニ						●	●
		Hemigrapsus属の一種						○	
カゲロウ	コカゲロウ	Cloeon属の一種						●	
トンボ	トンボ	Sympetrum属の一種						●	
カメムシ	アメンボ	アメンボ						●	
	カタビロアメンボ	カタビロアメンボ科の一種						●	
	コオイムシ	オオコオイムシ						●	
	マツモムシ	マツモムシ						●	
ハエ	ユスリカ	Chironomus属の一種						●	
		Cladopelma属の一種						●	
		Cryptochironomus属の一種						●	
		Glyptotendipes属の一種						●	
		Lipiniella属の一種						●	
		Paratendipes属の一種						●	
		Polypedilum属の一種						●	
		Stictochironomus属の一種						●	
		Tanytarsus属の一種						●	
		ユスリカ科の一種						○	
	カ	カ科の一種						●	
コウチュウ	ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ						●	
		オオヒメゲンゴロウ						●	
		ヒメゲンゴロウ						●	
	ガムシ	ガムシ			NT			●	
	マルハナノミ	Cyphon属の一種						●	
16目	26科	43種	0種	0種	2種	0種	1種	39種	3種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 表中の「○」は、同属の種が確認されている為、種数に計上しない

※3 重要種の選定基準は以下のとおり

I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物－青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)－」(2010 年 3 月 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※4 使用文献は以下のとおり

文献 1:「第 5 回自然環境保全基礎調査」(生物多様性センターホームページ)

文献 2:「河川水辺の国勢調査 平成 21 年岩木川底生動物」のうち、津軽大橋における確認種

(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献 3:「中里町誌」(昭和 41 年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

(2) 植物の生育の状況

1) 植物相

文献調査により生育の情報が得られた植物は 107 科 521 種であった。文献調査における植物確認種一覧を表 3-1-5-7(1)～(11)に示す。

文献調査により確認された植物のうち、表 3-1-5-7(1)～(11)に示す重要種の選定基準に該当したのは、ヌカボタデ、イトハコベ等 24 種である。

2) 植生

対象事業実施区域及びその周辺の現存植生を図 3-1-5-1(1) (1:100,000 図面) に、より拡大したものを図 3-1-5-1(2) (1:50,000 図面) に示す。

対象事業実施区域及びその周辺の植生は、主にヒノキアスナロ群落、ブナ-ミズナラ群落、カシワ-ミズナラ群落及びスギ植林である。

表 3-1-5-7(1) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献					
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6
シダ植物	トクサ	スギナ									●	●
		イヌスギナ									●	
	ゼンマイ	ゼンマイ										●
	コバノイシカグマ	ワラビ									●	●
	オシダ	シノブカグマ					●					
		リョウメンシダ					●					
		シラネワラビ					●					
		オシダ					●					●
		サカゲイノデ					●				●	
		ジュウモンジシダ					●					
		ヒメシダ	ミゾシダ									●
	ヒメシダ						●	●			●	
	ミヤマワラビ							●				
	メシダ	ヘビノネゴザ						●				
		クサソテツ									●	
		コウヤワラビ									●	
	ウラボシ	ヒメノキシノブ					●					
		ノキシノブ					●					
		ミヤマノキシノブ					●					
		オシャグジデンド					●					
ミズワラビ	カラクサシダ					●						
種子植物 裸子植物	マツ	カラマツ					●					
		アカマツ										●
		クロマツ						●			●	●
	スギ	スギ					●					●
	ヒノキ	ヒノキアスナロ					●					●
	イヌガヤ	イヌガヤ										●
ハイイヌガヤ						●						
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	ヤマモモ	ヤチヤナギ					●					
	クルミ	オニグルミ					●				●	●
		サワグルミ					●					●
	ヤナギ	ドロノキ										●
		セイヨウハコヤナギ									●	
		ヤマナラシ									●	
		バッコヤナギ						●			●	
		カワヤナギ									●	
		ネコヤナギ										●
		イヌコリヤナギ					●				●	
		シロヤナギ									●	
		コリヤナギ										●
		エゾノキヌヤナギ									●	
		オオタチヤナギ									●	
		オノエヤナギ									●	
		タチヤナギ					●				●	
	オオバヤナギ									●	●	
	カバノキ	ヤシヤブシ										●
		ケヤマハンノキ									●	
		ヤマハンノキ									●	
		ハンノキ					●					
		ダケカンバ					●					●
		ツノハシバミ									●	
	ブナ	クリ									●	●
		ブナ					●					●
		ミズナラ										●

表 3-1-5-7(2) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献						
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6	
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	ブナ	カシワ						●					●
		ミヤマナラ					●						
		コナラ											●
	ニレ	ハルニレ					●						●
		ケヤキ											●
	クワ	コウゾ											●
		カナムグラ											●
		カラハナソウ											●
		ヤマグワ											●
		クワ						●					
	イラクサ	カラムシ											●
		アカソ											●
		ミヤマイラクサ											●
		アオミズ											●
		エゾイラクサ											●
	タデ	ミズヒキ											●
		ヤナギタデ						●					●
		オオイヌタデ											●
		イヌタデ											●
		サデクサ											●
		ヤノネグサ											●
		イシミカワ											●
		ママコノシリヌグイ											●
		アキノウナギツカミ						●					●
		ヌカボタデ				VU	B			●	●		
		ミゾソバ						●					●
		オオミゾソバ											●
		ミチヤナギ											●
		イタドリ							●				●
		オオイタドリ						●					●
		スイバ							●				●
		ヒメスイバ							●				●
		ギシギシ											●
	エゾノギシギシ											●	
	スベリヒユ	スベリヒユ										●	
	ナデシコ	オランダミミナグサ											●
		ミミナグサ											●
		カワラナデシコ											●
		オオヤマフスマ							●				●
		ツメクサ											●
		ムシトリナデシコ							●				
		イトハコベ				VU	A			●	●		
		ノミノフスマ											●
		ウシハコベ											●
		ミドリハコベ											●
	アカザ	シロザ											●
		アカザ						●					●
		コアカザ											●
	マツブサ	マツブサ						●					
	ヒユ	ヒナタイノコズチ										●	
モクレン	ホオノキ											●	
	コブシ											●	
クスノキ	クロモジ											●	
	オオバクロモジ							●					

表 3-1-5-7(4) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献					
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	バラ	ヒメヘビイチゴ						●			●	
		ミツバツチグリ									●	
		クロバナロウゲ					●					
		ウワミズザクラ										●
		エゾヤマザクラ										●
		シウリザクラ						●				
		カスミザクラ						●				●
		ノイバラ									●	●
		クマイチゴ						●				
		クサイチゴ										●
		ナワシロイチゴ									●	
		ベニバナイチゴ					●					
		ヒメゴヨウイチゴ					●					
		ナガボノシロワレモコウ						●			●	
		ヒメゴヨウイチゴ						●				
		ナナカマド										●
		マメ	クサネム									●
	イタチハギ										●	
	ヤブマメ										●	
	ツルマメ										●	
	ヤハズソウ										●	
	ハマエンドウ										●	
	エゾノレンリソウ						●				●	
	ヤマハギ										●	
	メドハギ							●			●	
	セイヨウミヤコグサ										●	
	ミヤコグサ							●			●	
	コメツブウマゴヤシ										●	
	シナガワハギ										●	
	クズ										●	●
	ハリエンジュ							●				●
	クララ										●	●
	エンジュ											●
	センダイハギ							●				
	コメツブツメクサ										●	
ムラサキツメクサ										●		
シロツメクサ							●			●	●	
ツルフジバカマ										●	●	
クサフジ										●		
ヒロハクサフジ										●		
フジ										●	●	
カタバミ	カタバミ										●	
	エゾタチカタバミ										●	
フウロソウ	ゲンノショウコ										●	
トウダイグサ	エノキグサ										●	
ユズリハ	エゾユズリハ											●
ミカン	ミヤマシキミ										●	
	サンショウ									●	●	
ニガキ	ニガキ									●		
ウルシ	ツタウルシ					●	●			●	●	
	ヌルデ									●	●	
	ヤマウルシ						●				●	
カエデ	ハウチワカエデ										●	
	イタヤカエデ					●	●				●	

表 3-1-5-7(5) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献							
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6		
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	カエデ	ヤマモミジ											●	
		エゾイタヤ										●	●	
		アカイタヤ										●		
		ミネカエデ					●	●						
	トチノキ	トチノキ					●						●	
	ツリフネソウ	キツリフネ					●							
		ツリフネソウ										●		
	モチノキ	イヌツゲ											●	
		ツルツゲ											●	
		アカミノイヌツゲ											●	
	ニシキギ	ツルウメモドキ					●					●	●	
		コマユミ											●	
		ツリバナ							●					
	ツゲ	フッキソウ											●	
	クロフネモドキ	クマヤナギ										●	●	
	ブドウ	ノブドウ											●	
		ヤマブドウ						●					●	
		エビヅル											●	
	シナノキ	シナノキ										●	●	
	ジンチョウゲ	オニシバリ											●	
	グミ	ナツグミ											●	
		トウグミ										●		
		アキグミ											●	
	スマレ	タチツボスマレ											●	●
		オオバタチツボスマレ			NT	B				●				
		スマレ												●
		ミヤマスミレ							●					
		スマレサイシン												●
	ツボスマレ								●			●		
	キブシ	キブシ											●	
	ミゾハコベ	ミゾハコベ											●	
	ウリ	ゴキヅル											●	
		アマチャヅル											●	
		アレチウリ						●					●	
	ミソハギ	ミソハギ											●	
		エゾミソハギ											●	
		キカシグサ											●	
	ヒシ	ヒシ						●				●		
	アカバナ	ミズタマソウ											●	
		アカバナ											●	
		チョウジタデ											●	
		メマツヨイグサ											●	
		オオマツヨイグサ								●			●	
		アレチマツヨイグサ								●				
	アリノトウグサ	アリノトウグサ											●	
		ホザキノフサモ						●					●	
	ミズキ	アオキ												●
ヒメアオキ								●						
ミズキ												●	●	
クマノミズキ												●		
ウコギ	ケヤマウコギ											●		
	コシアブラ												●	
	ウコギ												●	
	ヤマウコギ												●	

表 3-1-5-7(6) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献							
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6		
種子植物 被子植物 双子葉植物 離弁花	ウコギ	ウド									●	●		
		タラノキ									●	●		
		ハリブキ					●					●		
		ハリギリ						●			●	●		
		トチバニンジン										●		
		シシウド										●		
	セリ	エゾボウフウ						●						
		エゾニュウ									●			
		シャク										●		
		ドクゼリ									●			
		ミツバ									●			
		オオハナウド									●			
		オオチドメ									●			
		セリ									●	●		
		ヤブニンジン										●		
		イブキゼリ					●							
		ヤブジラミ									●	●		
		種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花	イチヤクソウ	ベニバナイチヤクソウ										●
				ジンヨウイチヤクソウ						●				●
			ツツジ	ハナヒリノキ					●	●				●
ムラサキヤシオ												●		
ハクサンシャクナゲ							●							
ヤマツツジ												●		
ホツツジ							●					●		
クロマメノキ												●		
コケモモ							●							
ヤブコウジ	ヤブコウジ						●					●		
サクラソウ	オカトラノオ							●			●	●		
	ヌマトラノオ										●			
	コナスビ										●			
	ヤナギトラノオ						●							
	クサレダマ						●				●			
エゴノキ	エゴノキ										●	●		
モクセイ	アオダモ						●							
	ヤチダモ						●				●			
	ミヤマイボタ							●			●			
キョウチクトウ	チョウジソウ				NT	B				●				
ガガイモ	シロバナカモメヅル										●			
	ガガイモ										●			
アカネ	ヤエムグラ							●			●	●		
	ホソバノヨツバムグラ										●			
	クルマムグラ											●		
	キバナカワラマツバ							●			●			
	ツルアリドオシ						●					●		
	ヘクソカズラ										●			
	アカネ										●	●		
	アカネムグラ						●				●			
	ヒルガオ		ヒルガオ									●		
ムラサキ	ハナイバナ										●			
	ワスレナグサ										●			
	ヒレハリソウ										●			
	キュウリグサ										●			
クマツヅラ	ムラサキシキブ											●		
シソ	クルマバナ										●			

表 3-1-5-7(7) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献						
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6	
種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花	シソ	トウバナ										●	
		カキドオシ										●	●
		ヒメオドリコソウ										●	
		シロネ					●					●	
		ヒメシロネ						●				●	
		コシロネ										●	
		エゾシロネ										●	●
		ハッカ										●	
		ウツボグサ							●			●	
		ヒメナミキ										●	
		エゾナミキソウ				A	●						
		イヌゴマ										●	
		ニガクサ										●	
		ナス	オオマルバノホロシ				C						●
	ゴマノハグサ	キクモ				B						●	
		アメリカアゼナ										●	
		アゼナ										●	
		トキワハゼ										●	
		タチイヌノフグリ										●	
		オオイヌノフグリ										●	
	タヌキモ	タヌキモ			NT	B			●				
	オオバコ	オオバコ							●			●	
		トウオオバコ							●			●	
		ヘラオオバコ										●	
	スイカズラ	キンギンボク										●	●
		アラゲヒョウタンボク							●				
		エゾニワトコ										●	
		ニワトコ										●	●
		ガマズミ											●
		オオカメノキ					●					●	●
		カンボク					●					●	●
		ケナシヤブデマリ					●					●	
		マルバゴマギ										●	
		ミヤマガマズミ							●				
		タニウツギ										●	●
		オミナエシ	オミナエシ										
	オトコエシ												●
	キキョウ	ツリガネニンジン							●				●
		ツルニンジン											●
		ミゾカクシ										●	
		タニギキョウ					●						
		キキョウ			VU	B							●
	キク	ノコギリソウ							●			●	
		エゾノコギリソウ											●
		ノブキ											●
		ブタクサ										●	
		オオブタクサ										●	
		ヤマハハコ					●	●					
		ヨモギ					●	●				●	●
		オトコヨモギ						●				●	●
		ハマオトコヨモギ										●	
		オオヨモギ										●	
		コンギク											●
		アメリカセンダングサ					●					●	

表 3-1-5-7(8) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献						
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6	
種子植物 被子植物 双子葉植物 合弁花	キク	モミジガサ											●
		ヨブスマソウ											●
		ヤブタバコ											●
		トキンソウ										●	
		フランスギク										●	
		ヒメアザミ											●
		ノアザミ										●	
		マアザミ											●
		アメリカオニアザミ										●	
		サワアザミ											●
		アレチノギク											●
		ヒメムカシヨモギ										●	
		ハルジオン										●	
		ヒヨドリバナ							●			●	●
		ヨツバヒヨドリ										●	
		サワヒヨドリ										●	
		ハハコグサ							●			●	
		ククイモ										●	
		コウリタンポポ										●	
		ヤナギタンポポ							●				
		ブタナ							●			●	
		オグルマ										●	●
		カセンソウ							●				
		オオヂシバリ										●	
		ニガナ							●			●	●
		ハナニガナ										●	
		アキノノゲシ							●			●	
		トゲチシャ										●	
		アキタブキ										●	
		フキ							●				
		コウゾリナ							●			●	
		オオハンゴンソウ							●			●	
		ハンゴンソウ										●	●
		サワオグルマ							●				
		ノボロギク										●	
		セイタカアワダチソウ							●			●	
		オオアワダチソウ										●	
		アキノキリンソウ							●				●
		オニノゲシ										●	
		ハチジョウナ										●	
		ヒメジョオン							●			●	
アカミタンポポ										●			
セイヨウタンポポ										●			
イガオナモミ							●						
ヤクシソウ											●		
オニタビラコ										●	●		
ミヤマキタアザミ				VU			●						
種子植物 被子植物 単子葉植物	オモダカ	ヘラオモダカ										●	
		サジオモダカ										●	
		オモダカ							●			●	
	ヒルムシロ	オヒルムシロ							●				
		ホソバミズヒキモ										●	
		ツツイトモ			VU	A			●	●			
	イトクズモ			VU	B			●	●				

表 3-1-5-7(9) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献					
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6
種子植物 被子植物 単子葉植物	アマモ	コアマモ				B				●		
	ユリ	ネバリノギラン						●				
		ノビル									●	
		ツバメオモト										●
		ハウチャクソウ										●
		チゴユリ										●
		ヤブカンゾウ						●				●
		ミズギボウシ										●
		タチギボウシ						●				
		オオバギボウシ									●	
		オニユリ										●
		クルマユリ							●			●
		マイヅルソウ						●	●			●
		ツクバネソウ						●				●
		オオナルコユリ									●	
		ユキザサ						●				
		サルトリイバラ										●
		シオデ									●	●
		ヤマカシュウ										●
		コジマエンレイソウ			VU					●		
		クロミノコジマエンレイソウ				A					●	
		エンレイソウ										●
	ヤマノイモ	ヤマノイモ									●	
		オニドコロ									●	
	アヤメ	ハナショウブ										●
		ノハナショウブ							●			
		カキツバタ			NT	B						●
		キショウブ									●	
		アヤメ										●
	イグサ	ヒロハノコウガイゼキショウ									●	
		イ						●			●	
		タチコウガイゼキショウ									●	
		コウガイゼキショウ									●	
		クサイ									●	
		ハリコウガイゼキショウ									●	
		イヌイ									●	
		スズメノヤリ						●			●	
	ツユクサ	ツユクサ									●	
		イボクサ									●	
	イネ	アオカモジグサ									●	
		カモジグサ									●	
		コヌカグサ							●		●	
		ヤマヌカボ							●			
		ハイコヌカグサ									●	
		スズメノテッポウ									●	
		ハルガヤ							●		●	
		コブナグサ									●	
トダシバ								●				
カラスムギ											●	
ヤクナガイヌムギ										●		
ハマチャヒキ										●		
キツネガヤ										●		
ヤマアワ										●		
ヒメノガリヤス								●				

表 3-1-5-7(10) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献						
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6	
種子植物 被子植物 単子葉植物	イネ	カモガヤ						●			●		
		イヌビエ					●				●		
		シナダレスズメガヤ									●		
		カゼクサ									●		
		オニウシノケグサ						●			●		
		ヒロハノウシノケグサ									●		
		ドジョウツナギ									●		
		コウボウ						●					
		シラゲガヤ									●		
		チガヤ									●		
		チゴザサ									●		
		ネズミムギ									●		
		コメガヤ						●					
		オギ					●				●		
		ススキ					●	●			●		
		クサヨシ									●		
		カナリークサヨシ									●		
		オオアワガエリ						●			●		
		ヨシ					●				●		
		ミゾイチゴツナギ									●		
		スズメノカタビラ									●	●	
		ナガハグサ						●			●		
		オオスズメノカタビラ									●		
		チシマザサ					●	●			●	●	
		チマキザサ									●		
		マコモ					●				●		
		シバ						●			●		
		サトイモ	ショウブ									●	●
			マムシグサ										●
			ヒメカイウ			NT	B		●				
			ミズバショウ						●				●
	カラスビシャク										●	●	
	ザゼンソウ											●	
	ウキクサ	アオウキクサ									●		
		ウキクサ									●		
	ガマ	ヒメガマ									●		
		ガマ					●				●		
	カヤツリグサ	ウキヤガラ					●				●		
		エゾウキヤガラ					●						
		ミノボロスゲ						●			●		
		クロカワズスゲ									●		
		カサスゲ									●		
		ムジナスゲ					●						
		カンスゲ										●	
		ミヤマカンスゲ					●						
		ツルスゲ					●						
		シオクグ					●				●		
		ミチノクホンモンジスゲ						●					
		オオカワズスゲ									●		
		アゼスゲ					●				●		
		オニナルコスゲ					●				●		
マツバイ										●			
ハリイ										●			
ヒメヌマハリイ										●			

表 3-1-5-7(11) 文献調査植物相一覧

分類	科名	種名	重要種選定基準				文献							
			I	II	III	IV	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	文献6		
種子植物 被子植物 単子葉植物	カヤツリグサ	フトイ									●			
		カンガレイ					●				●			
		サンカクイ					●				●			
		クロアブラガヤ									●			
		ツルアブラガヤ									●			
		アブラガヤ										●		
	ラン	エビネ			NT	B						●		
		サルメンエビネ			VU	A						●		
		ギンラン										●		
		サイハイラン										●		
		シュンラン										●		
		クマガイソウ			VU	B			●					
		アケボノシュスラン						●						
		エゾスズラン										●		
		アリドオシラン						●						
		トンボソウ						●						
		-	109科	556種	0種	0種	17種	21種	104種	97種	9種	8種	331種	198種

※1 分類、配列などは「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 24 年度生物リストー」(平成 24 年 国土交通省)に準拠

※2 重要種の選定基準は以下の通り

I:「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日 法律第 214 号)

国特:国指定特別天然記念物 国天:国指定天然記念物

II:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日 法律第 75 号)

国際:国際希少野生動植物種 国内:国内希少野生動植物種

III:「第 4 次レッドリストの公表について」(平成 24 年 8 月 28 日公表 環境省)

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類

NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群

IV:「青森県の希少な野生生物ー青森県レッドデータブック(2010 年改訂版)ー」(2010 年 3 月 青森県)

EX:絶滅野生生物 A:最重要希少野生生物 B:重要希少野生生物 C:希少野生生物

D:要調査野生生物 LP:地域限定希少野生生物

※3 使用文献

文献1:「青森県史」(平成15年 青森県史友の会)「1.7津軽半島及び屏風山の植生」の大倉岳・袴腰岳・玉清水山、岩木川河畔の植生より抜粋

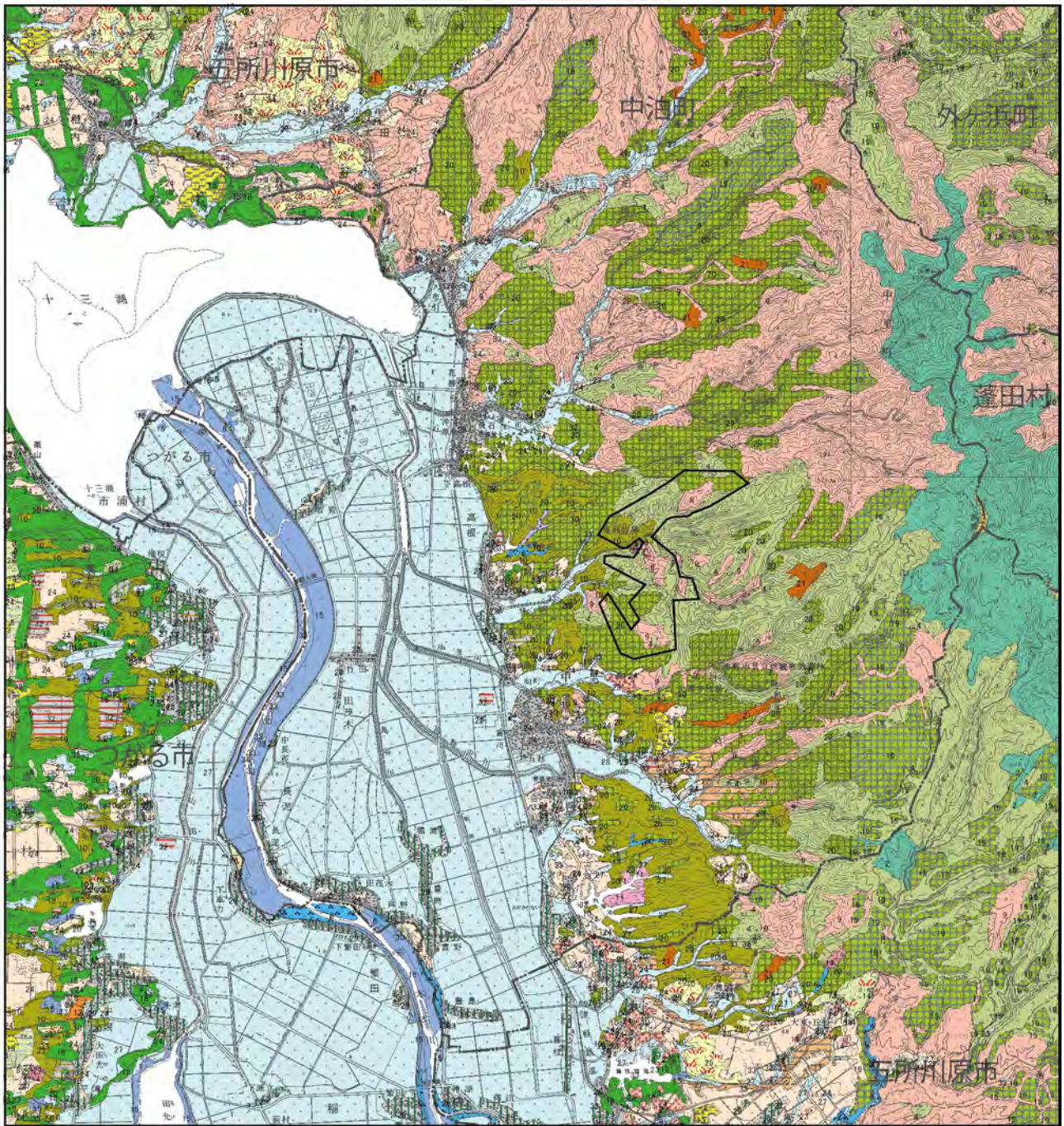
文献2:「第2回自然環境保全基礎調査-特定植物群落調査報告書-」(昭和54年 青森県) 53.袴腰岳の風衝植物群落、67.車力のクロマツ林より抜粋

文献3:「青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック-」(平成12年 青森県)対象事業実施区域周辺の種を抜粋

文献4:「青森県の希少な野生生物-青森県レッドデータブック(2010改訂版)-」(平成22年 青森県) 対象事業実施区域周辺の種を抜粋

文献5:「河川水辺の国勢調査 平成17年岩木川植物」のうち、十三湖東岸、鳥谷川河口、岩木川河口、津軽大橋、長泥、豊島における確認種(水情報国土データ管理センターホームページ)

文献6:「中里町誌」(昭和41年 中里町) 山添地帯の生物を抜粋

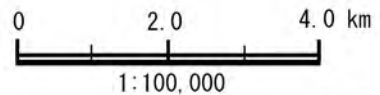


凡例

○ : 対象事業実施区域

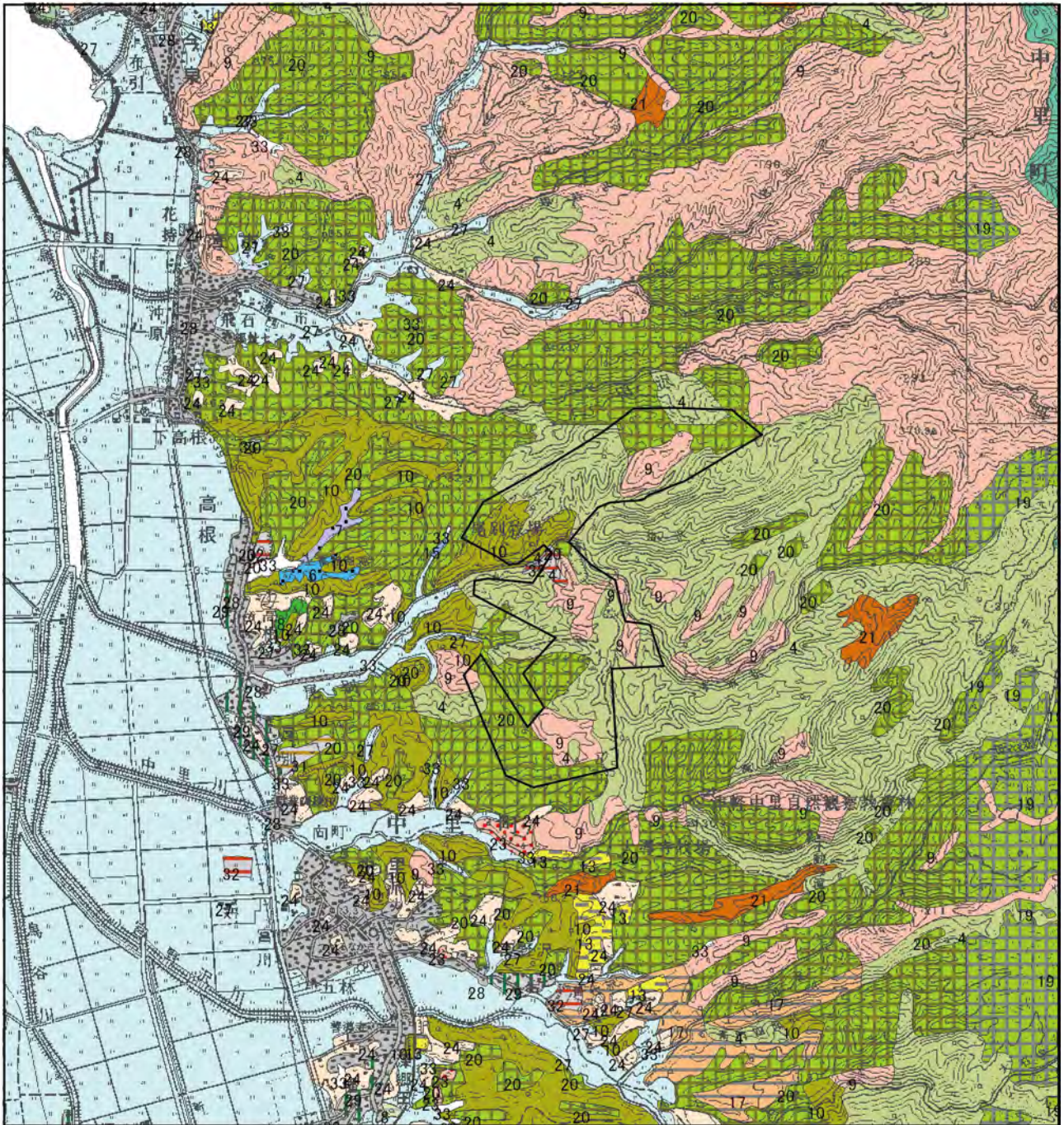
- | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| 1 ササ自然草原 | 9 ブナ・ミズナラ群落 | 22 落葉広葉樹植林 |
| 2 チシマザサ・ブナ群団 | 10 カシワ・ミズナラ群落 | 23 落葉果樹園 |
| 3 エゾイタヤ・シナノキ群落 | 11 アカマツ群落 | 24 畑地雑草群落 |
| 4 ヒノキ・アスナロ群落 | 12 ササ草原 | 25 牧草地 |
| 5 ジュウモンジシダ・サワグルミ群集 | 13 ススキ群団 | 26 牧草地、ゴルフ場、飛行場 |
| 6 ヤナギ低木群落 | 14 タラノキ・クマイチゴ群落 | 27 水田雑草群落 |
| 7 ハンノキ・ヤチダモ群集 | 15 ヨシクラス | 28 市街地 |
| 8 自然低木群落 | 16 塩沼地植生 | 29 緑の多い住宅地 |
| | 17 アカマツ植林 | 30 緑の多い住宅地、公園、墓地 |
| | 18 クロマツ植林 | 31 造成地、採石場 |
| | 19 スギ・ヒノキ・サウラ植林 | 32 造成地、採石場、人為裸地、焼跡 |
| | 20 スギ植林 | 33 開放水域 |
| | 21 カラマツ植林 | 34 自然裸地 |

図 3-1-5-1(1) 現存植生



出典: 現存植生図

小泊 平成11年 環境省、金木 平成11年 環境省
 蟹田 平成11年 環境省、油川 平成11年 環境省

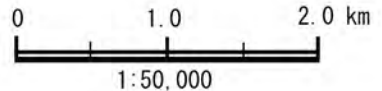


凡例

○:対象事業実施区域

- | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|
| 1 ササ自然草原 | 9 ブナ・ミズナラ群落 | 22 落葉広葉樹植林 |
| 2 チシマザサ・ブナ群団 | 10 カシワ・ミズナラ群落 | 23 落葉果樹園 |
| 3 エゾイタヤシナノキ群落 | 11 アカマツ群落 | 24 畑地雑草群落 |
| 4 ヒノキアスノコ群落 | 12 ササ草原 | 25 牧草地 |
| 5 ジュウモンジシダ・サウグルミ群集 | 13 ススキ群団 | 26 牧草地、ゴルフ場、飛行場 |
| 6 ヤナギ低木群落 | 14 タラノキ・クマイチゴ群落 | 27 水田雑草群落 |
| 7 ハンノキ・ヤチダモ群集 | 15 ヨシクラス | 28 市街地 |
| 8 自然低木群落 | 16 塩沼地植生 | 29 緑の多い住宅地 |
| | 17 アカマツ植林 | 30 緑の多い住宅地、公園、墓地 |
| | 18 クロマツ植林 | 31 造成地、採石場 |
| | 19 スギ・ヒノキ・サウラ植林 | 32 造成地、採石場、人為裸地、焼跡 |
| | 20 スギ植林 | 33 開放水域 |
| | 21 カラマツ植林 | 34 自然裸地 |

図 3-1-5-1(2) 現存植生



出典:現存植生図
 小泊 平成11年 環境省、金木 平成11年 環境省
 蟹田 平成11年 環境省、油川 平成11年 環境省

3) 重要な植物群落

対象事業実施区域及びその周辺に生育する重要な植物群落一覧を表 3-1-5-8 に、位置を図 3-1-5-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-8 対象事業実施区域及びその周辺に生育する重要な植物群落一覧

特定植物群落	概 要
袴腰岳の風衝地植物群落	ヒメノガリヤス-ミヤマキタアザミ群落、チシマザサ群落、ベニバナイチゴ群落等から成る。特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なものとして選定されている。
車力のクロマツ林	藩政時代より残るクロマツ林で、村民の森として公園に利用されている。人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないものとして選定されている。

出典：青森県自然環境情報図(環境庁 平成元年)

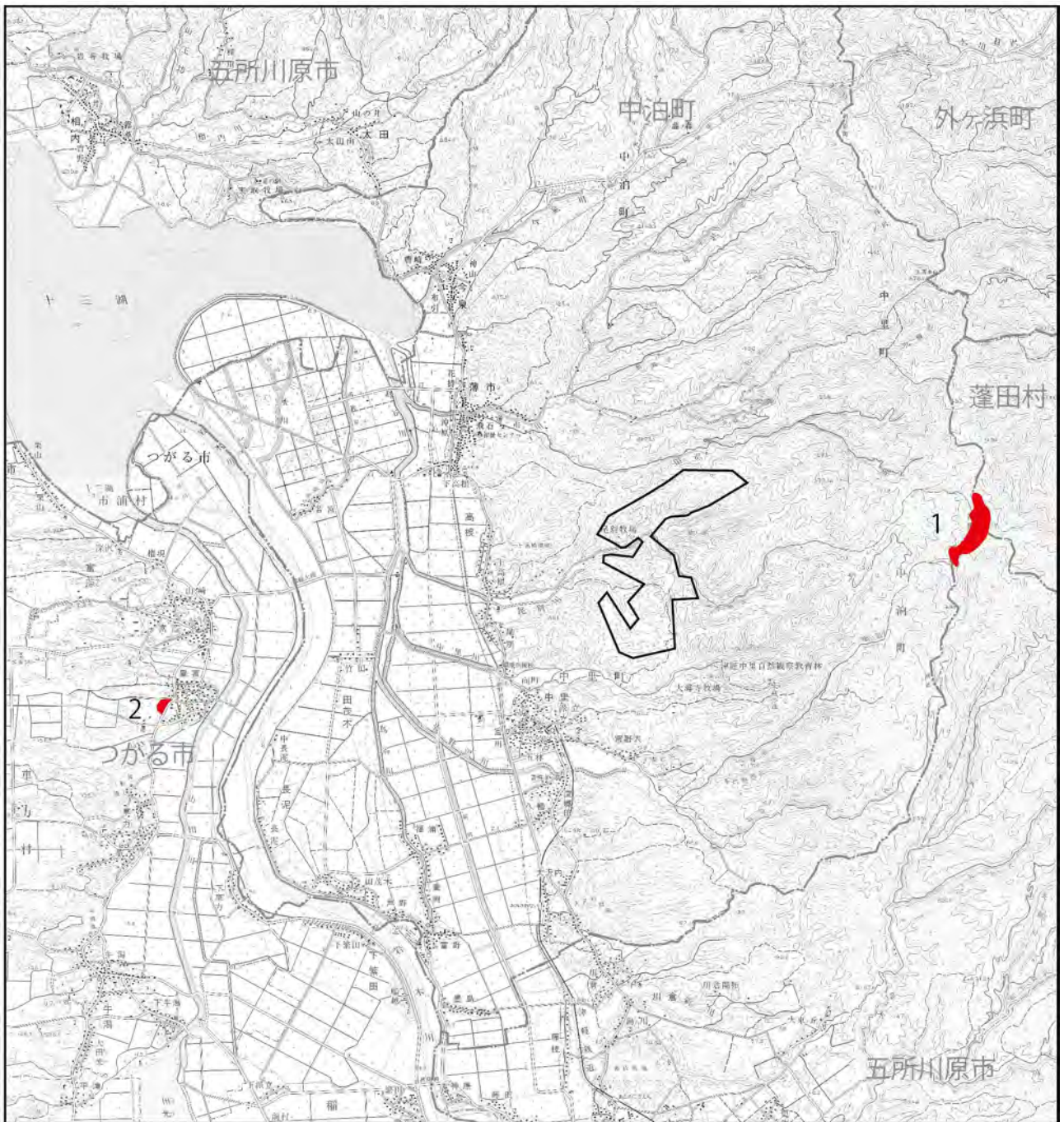
4) 巨樹・巨木

対象事業実施区域及びその周辺に生育する巨樹・巨木一覧を表 3-1-5-9 に、位置を図 3-1-5-3 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-9 対象事業実施区域及びその周辺に生育する巨樹・巨木一覧

No.	樹 種	区 分	所在地
1	コナラ	単 木	中里町高根小金石
2	スギ	単 木	車力村富蒔権現伊豆神社
3	ケヤキ	単 木	車力村富蒔権現伊豆神社
4	クロマツ	単 木	車力村富蒔稲荷神社
5	クロマツ	単 木	車力村豊富屏風山天満宮
6	イチョウ	単 木	車力村牛潟上八幡宮
7	クロマツ	単 木	車力村下牛潟宗像神社
8	クロマツ	単 木	車力村下牛潟観音
9	アカマツ	単 木	金木町金木芦野

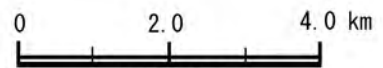
出典：第 4 回自然環境基礎調査(環境庁 1991 年)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 重要な植物群落
- 1: 袴腰岳の風衝地植物群落
- 2: 車力のクロマツ林

図 3-1-5-2 重要な植物群落



出典:青森県自然環境情報図(環境庁 平成元年)

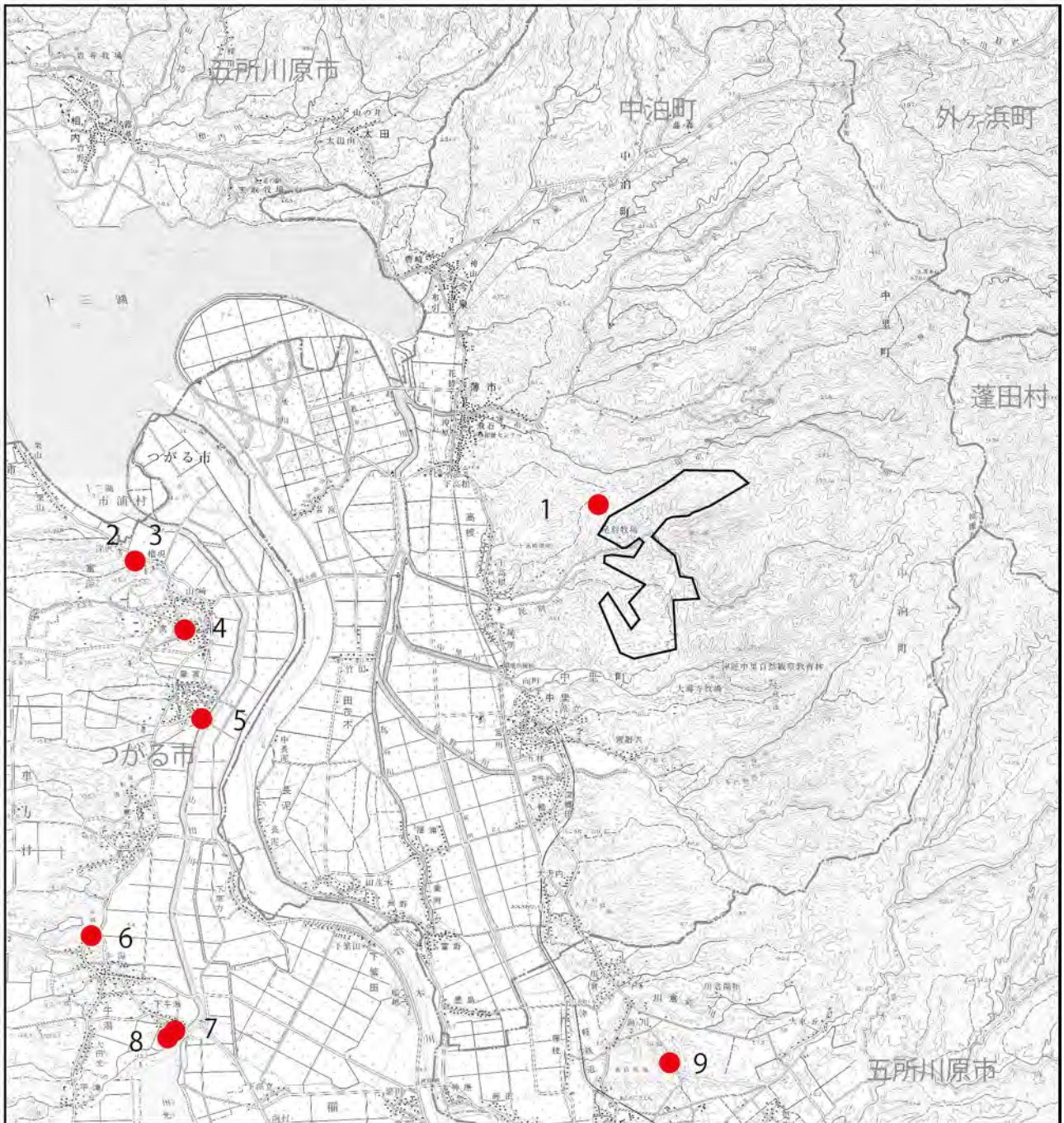


図 3-1-5-3 巨樹・巨木位置

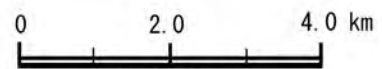
凡 例

○ : 対象事業実施区域

● : 巨樹・巨木

- | | |
|--------|-------------|
| 1.コナラ | 中里町高根小金石 |
| 2.スギ | 車力村富范権現伊豆神社 |
| 3.ケヤキ | 車力村富范権現伊豆神社 |
| 4.クロマツ | 車力村富范稲荷神社 |
| 5.クロマツ | 車力村豊富屏風山天満宮 |
| 6.イチョウ | 車力村牛瀉瀉上八幡宮 |
| 7.クロマツ | 車力村下牛瀉宗像神社 |
| 8.クロマツ | 車力村下牛瀉観音 |
| 9.アカマツ | 金木町金木芦野 |

出典: 第4回自然環境保全基礎調査(環境庁 1991年)



1:100,000

(3) 生態系の状況

1) 環境類型区分

対象事業実施区域及びその周辺の自然環境について、自然環境のアセスメント技術(I)(環境庁)、青森県環境影響評価技術指針マニュアル(青森県)等に記載される手法に基づき、地形分類(図 3-1-4-1)、現存植生図(図 3-1-5-1)等の状況をオーバーレイして類型化を行い、10 の環境類型区分に分類した。環境類型区分の概要を表 3-1-5-10 に、環境類型区分図を図 3-1-5-4 にそれぞれ示す。

対象事業実施区域及びその周辺の地形は、大きく山地、台地・丘陵、平地の3つに区分できる。山地及び台地・丘陵には、ヒノキアスナロ群落やチシマザサ-ブナ群団等の自然植生、ブナ-ミズナラ群落やカシワ-ミズナラ群落等の二次林、スギ植林やカラマツ植林等の植林が広がっている。台地・丘陵に挟まれ南北に広がる平地は、ほぼ全域が水田雑草群落となっている。また、岩木川沿いには水域が広がり、その河原はヨシ群落に占められている。

表 3-1-5-10 環境類型区分の概要

環境類型区分	主な地形	主な土地利用	主な植生区分
〈平地〉農耕地	平地	農耕地(水田、畑)	水田雑草群落
〈平地〉ヨシ帯	平地	河川敷	ヨシ群落
〈台地・丘陵〉農耕地	台地・丘陵	農耕地(水田、畑)	水田雑草群落 畑地雑草群落
〈台地・丘陵〉植林	台地・丘陵	人工針葉樹林	スギ植林
〈台地・丘陵〉二次林	台地・丘陵	薪炭林	カシワ-ミズナラ群落
〈山地〉植林	山地	人工針葉樹林	スギ植林
〈山地〉二次林	山地	薪炭林	ブナ-ミズナラ群落
〈山地〉自然植生	山地	自然林	ヒノキアスナロ群落
開放水域	開放水面	自然公園	—
その他	台地	住宅地	—

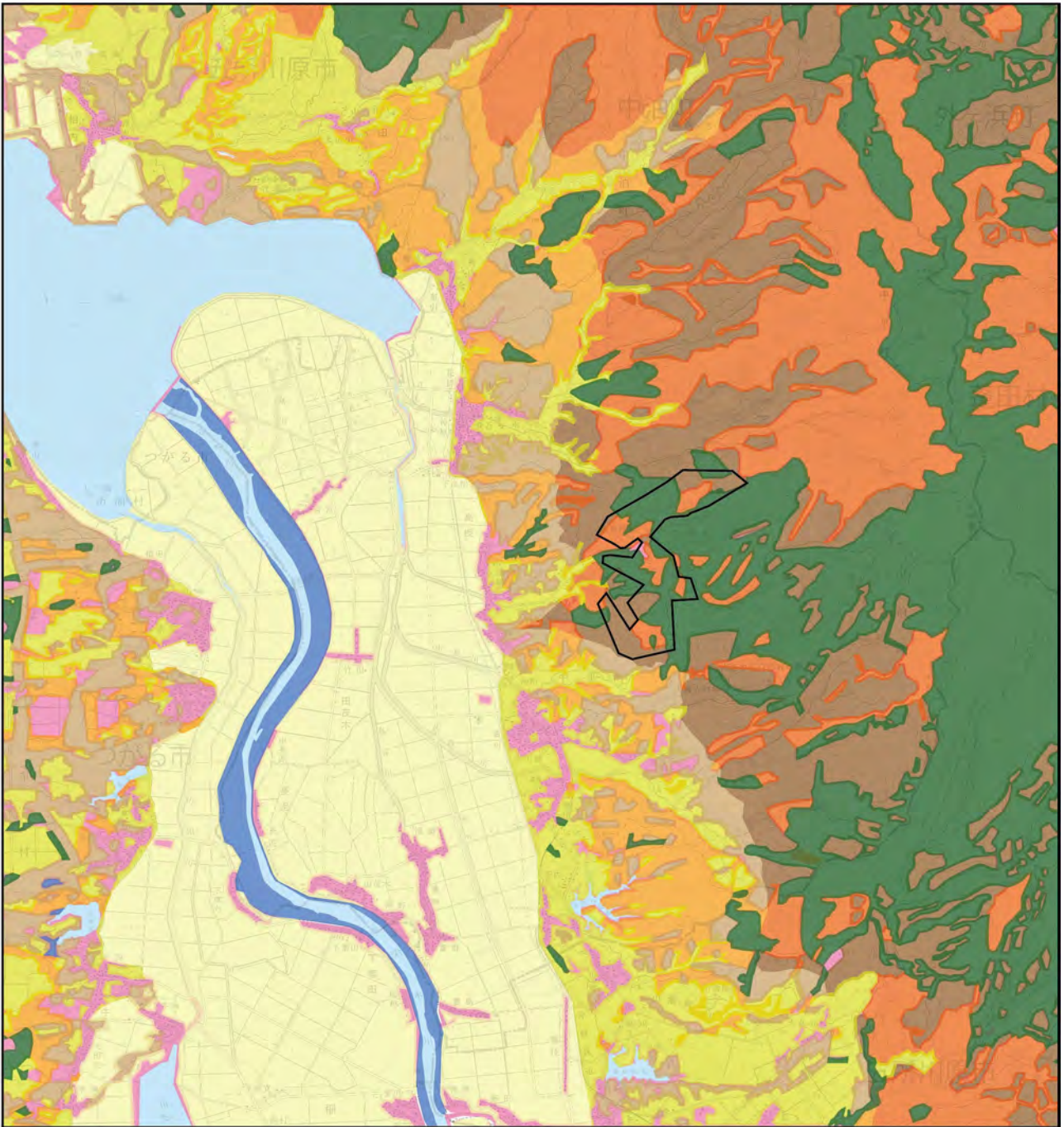
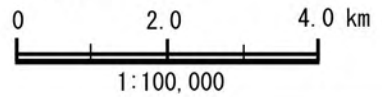


図 3-1-5-4 環境類型区分

凡 例

- : 対象事業実施区域
- (Yellow) : 〈平地〉農耕地
- (Blue) : 〈平地〉ヨシ帯
- (Light Yellow) : 〈台地・段丘〉農耕地
- (Brown) : 〈台地・段丘〉植林
- (Orange) : 〈台地・段丘〉二次林
- (Dark Brown) : 〈山地〉植林
- (Orange) : 〈山地〉二次林
- (Green) : 〈山地〉自然植生
- (Light Blue) : 開放水域
- (Pink) : その他

出典: 「土地分類基本調査 小泊」(青森県 1994年)、 「土地分類基本調査 金木」(青森県 1993年)
 「土地分類基本調査 龍飛崎・蟹田」(青森県 1992年)、 「土地分類基本調査 油川」(青森県 1984年)
 「現存植生図 小泊」(環境省平成11年)、 「現存植生図 金木」(環境省平成11年)
 「現存植生図 蟹田」(環境省平成11年)、 「現存植生図 油川」(環境省平成11年)



2) 生態系の概要

各環境類型区分に生息又は生育している代表的な動植物を表 3-1-5-11 に、各環境類型区分の食物連鎖模式図を図 3-1-5-5 にそれぞれ示す。また、各環境類型区分の概要を以下に示す。

(7) 〈平地〉農耕地

岩木川の氾濫原に広域的に分布している。生産者である植物は、オオバコやイネ科の植物が多く見られ、それらを直接消費する一次消費者として、バッタ類、チョウ類等の昆虫類、小型鳥類、ネズミ類が生息している。一次消費者は、シマヘビやタヌキ等の動物に消費される他、より高次消費者であるキツネ、ハヤブサ、チュウヒ等の餌となっていると考えられる。また、早春及び晩秋には、ガン・カモ類が水田で落穂等を採餌し、渡りの中継地として利用されている。

(イ) 〈平地〉ヨシ帯

岩木川沿いの河原に帯状に分布している。植物はヨシ群落が大部分を占め、一次消費者として、チョウ類、ハエ類等の昆虫類、甲殻類、魚類等が生息している。一次消費者は、カエル類やサギ類等の動物に消費され、これらは更にイタチやハヤブサの餌となっていると考えられる。また、ヨシ群落は、オオセッカやオオヨシキリの繁殖地の他、チュウヒの営巣地として利用されている可能性が考えられる。

(ウ) 〈台地・丘陵〉農耕地

台地・丘陵地が小渓流によって開析された谷部に分布している。生産者である植物は、イネ科が多く見られ、それらを直接消費する一次消費者として、バッタ類、チョウ類等の昆虫類、小型鳥類、ネズミ類が生息している。一次消費者は、タヌキ等の動物に消費される他、より高次消費者であるキツネ、フクロウ、ノスリ等の餌となっていると考えられる。

(I) 〈台地・丘陵〉植林

台地・丘陵地の中で、比較的集落に近いなだらかな地形上に分布している。植物はスギ植林が大部分を占め、一次消費者として、カメムシ類、コウチュウ類が生息している。一次消費者は、カエル類やニホンカナヘビ等の動物に消費され、これらは更にタヌキやキツネの餌となっていると考えられる。また、スギ植林は、ハイタカやオオタカの営巣地として利用されている可能性が考えられる。

(オ) 〈台地・丘陵〉二次林

台地・丘陵地の中で、尾根部に多く分布している。植物はクリ、ミズナラ、カシワ等で主に薪炭林として利用されているが、現在は放置されている箇所も多いと考えられる。一次消費者として、カメムシ類、チョウ類、ハチ類等の昆虫類、ネズミ類が生息している。一次消費者は、ヤマカガシやカエル類の餌となり、これらは更にテン等の動物に消費されているものと考えられる。また、高次消費者としてハイタカ、オオタカが、キジバトや小型鳥類等を餌としている他、ハチクマがハチ類を餌としていると考えられる。

(カ) 〈山地〉植林

山地の中で、沢に近い低地から中腹にかけての斜面上に分布し、対象事業実施区域内にも分布している。植物はスギ植林が大部分を占め、一次消費者として、カメムシ類、コウチュウ類が生息している。一次消費者は、カエル類等に消費され、これらは更にシマヘビの餌となり、シマヘビは昆虫類等を餌とするカラ類とともにハイタカ、オオタカ、ハチクマの餌となっていると考えられる。また、スギ植林は、ハイタカやオオタカの営巣地として利用されている可能性が考えられる。

(キ) 〈山地〉二次林

山地の中で、斜面から尾根部に多く分布し、対象事業実施区域内にも分布している。植物はブナ、ミズナラ等の広葉樹で主に薪炭林として利用されているが、保安林指定されている箇所もある。一次消費者として、カメムシ類、チョウ類、ガ類等の昆虫類、ネズミ類が生息している。一次消費者は、モリアオガエル、タゴガエルの餌となり、これらは更にシマヘビ、ニホンマムシに消費されているものと考えられる。また、ヨタカやコウモリ類も昆虫類を餌としている。高次消費者としてクマタカがノウサギ、ヤマドリ等を餌としていると考えられる。

(ク) 〈山地〉自然植生

山地の中で、比較的急傾斜地に多く分布し、対象事業実施区域内にも分布している。植物はヒノキアスナロ群落の自然林で、多くは保安林指定されている。一次消費者として、カメムシ類、チョウ類、ガ類等の昆虫類、ネズミ類が生息している。昆虫類は、サンショウウオ類の餌となり、更に植物とともに雑食性のニホンザルに消費されているものと考えられる。高次消費者としてクマタカがノウサギ、ヤマドリ等を餌としていると考えられる。また、ヒノキアスナロ群落は、クマタカの営巣地として利用されている可能性が考えられる。

(ケ) 開放水域

十三湖、岩木川、台地・丘陵地末端部付近のため池に分布している。一次消費者としてチョウ類、ハエ類の昆虫類の他、藻類等を餌とする魚類が生息している。チョウ類、ハエ類は、トンボ類やニホンアマガエルの餌となり、トンボ類は更にサンショウウオ類の餌となっていると考えられる。魚類は、カンムリカイツブリの他、ミサゴの餌となっており、マコモ等を餌とするガン・カモ類が、オジロワシやオオワシの餌となっていると考えられる。

(コ) その他

台地・丘陵地の末端部付近や岩木川沿いに分布し、主に住宅地として利用されている。一次消費者としてチョウ類、ハエ類の昆虫類の他、ネズミ類、小型鳥類が生息している。また、昆虫類は小型鳥類の餌になっていると考えられる。

表 3-1-5-11 各環境類型区分の代表的な動植物

環境類型区分		植物 (生産者)	動物 (消費者)
平地	農耕地	オオバコ、カモガヤ、イヌビエ、イネ等	哺乳類：ネズミ類、タヌキ、キツネ 鳥類：ガン・カモ類、ハクチョウ類、ハヤブサ、スズメ、カワラヒワ 両生・爬虫類：カエル類、シマヘビ 昆虫類：バッタ類、チョウ類
	ヨシ帯	カワヤナギ、オギ、ススキ、ヨシ等、藻類	哺乳類：ネズミ類、イタチ 鳥類：サギ類、チュウヒ、オオセッカ、オオヨシキリ 両生・爬虫類：カエル類、シマヘビ 昆虫類：トンボ類、チョウ類、ハエ類 魚類 底生動物：甲殻類
台地・丘陵	農耕地	イタドリ、スベリヒユ、オオバコ、カモガヤ、ススキ等	哺乳類：ネズミ類、タヌキ、キツネ 鳥類：サギ類、ノスリ、フクロウ、ムクドリ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ 両生・爬虫類：カエル類、ニホンカナヘビ 昆虫類：トンボ類、バッタ類、チョウ類
	植林	ミゾシダ、クサソテツ、スギ、クリ、ノリウツギ、アオキ等	哺乳類：ムササビ 鳥類：キジバト、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、モズ、ツバメ、ムクドリ 両生・爬虫類：カエル類、ニホンカナヘビ 昆虫類：カメムシ類、コウチュウ類
	二次林	クリ、ミズナラ、カシワ、コナラ、ノイバラ、ツタウルシ等	哺乳類：ネズミ類、ムササビ、テン、アナグマ 鳥類：キジバト、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、カラ類 両生・爬虫類：カエル類、ヤマカガシ 昆虫類：カメムシ類、チョウ類、ガ類、コウチュウ類、ハチ類
山地	植林	ミゾシダ、クサソテツ、スギ、ミツバアケビ、ノリウツギ等	哺乳類：ムササビ 鳥類：ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、カラ類 両生・爬虫類：モリアオガエル、シマヘビ、ニホンマムシ 昆虫類：カメムシ類、コウチュウ類
	二次林	ブナ、ミズナラ、カスミザクラ、ツタウルシ、エゾイタヤ、キブシ等	哺乳類：ネズミ類、コウモリ類、ニホンザル、ノウサギ 鳥類：ヤマドリ、アオバト、ヨタカ、ハチクマ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ 両生・爬虫類：サンショウウオ類、タゴガエル、モリアオガエル、シマヘビ、ニホンマムシ 昆虫類：カメムシ類、チョウ類、ガ類、コウチュウ類
	自然植生	ヒノキアスナロ、ブナ、ミズナラ、エゾイタヤ、チシマザサ等	哺乳類：ネズミ類、コウモリ類、ニホンザル、ノウサギ、カモシカ 鳥類：ヤマドリ、アオバト、クマタカ 両生・爬虫類：サンショウウオ類、ニホンマムシ 昆虫類：カメムシ類、チョウ類、ガ類、コウチュウ類、ハチ類
開放水域	ヒツジグサ、ヒシ、ホソバミズヒキモ、マコモ等	鳥類：ガン・カモ類、カンムリカイツブリ、ミサゴ、オジロワシ、オオワシ 両生・爬虫類：サンショウウオ類、ニホンアマガエル 昆虫類：トンボ類、チョウ類、ハエ類 魚類	
その他	シロツメクサ、ヨモギ、セイヨウタンポポ等	哺乳類：ネズミ類 鳥類：スズメ、カワラヒワ 昆虫類：チョウ類、ハエ類	

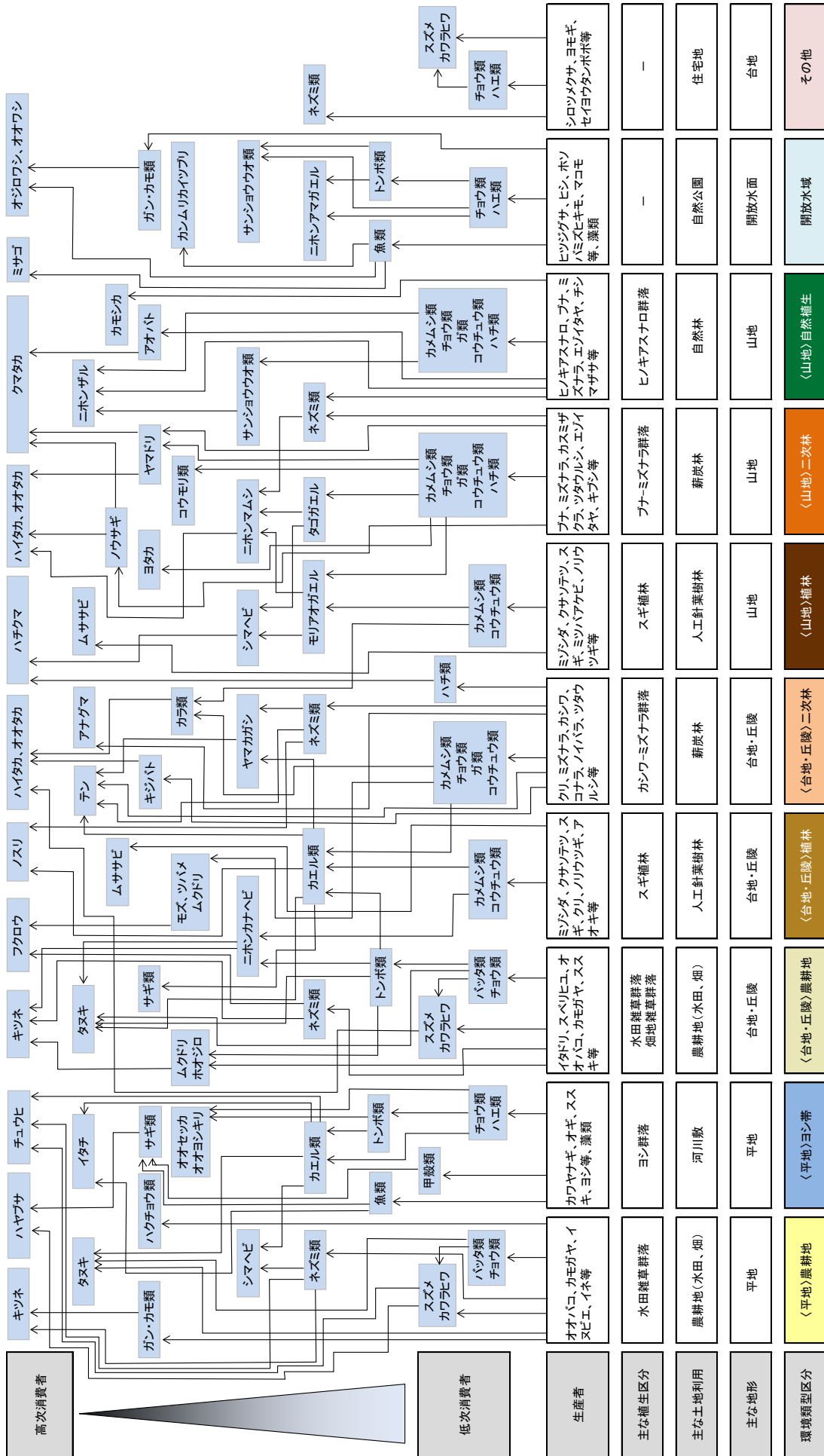


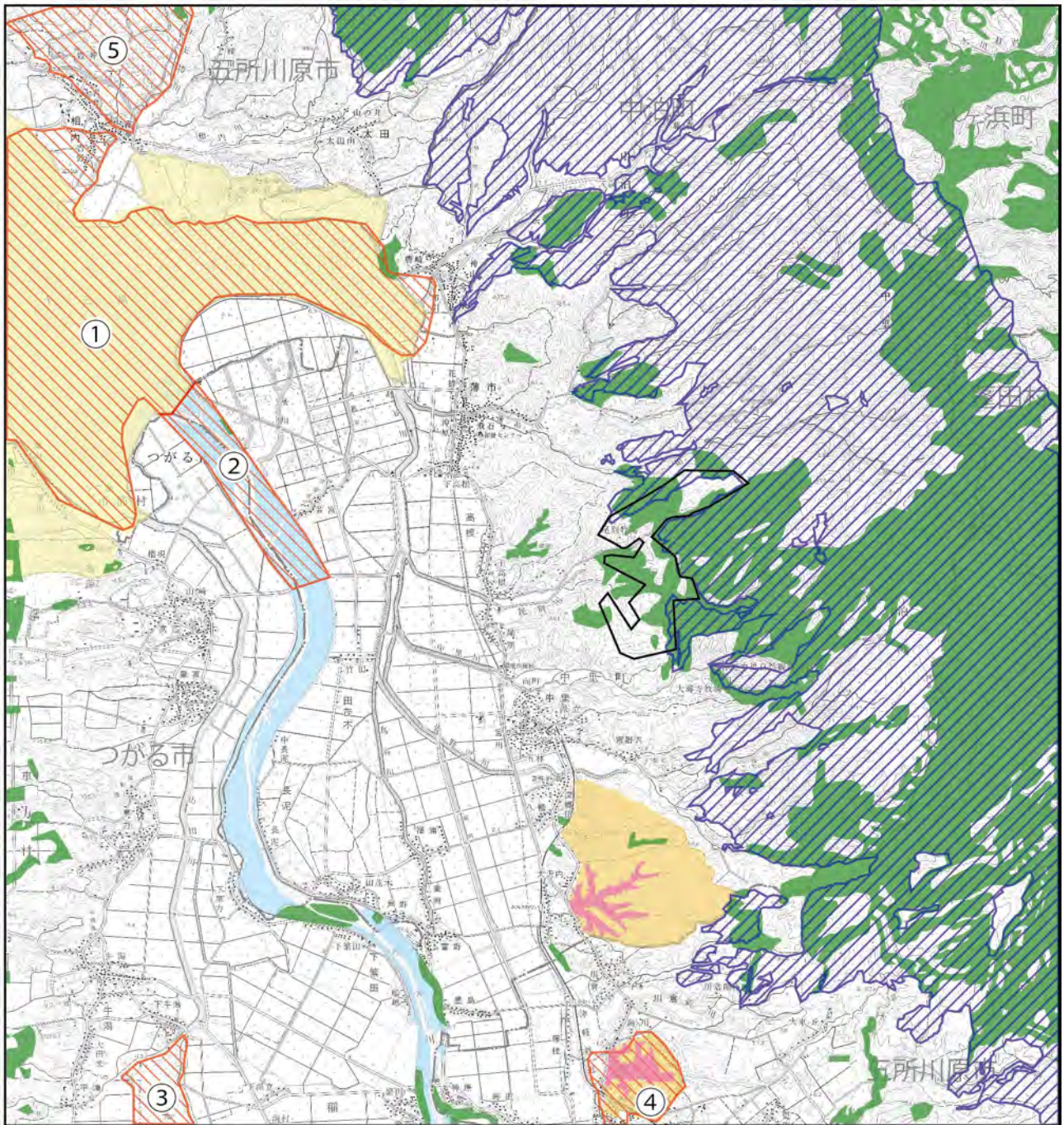
図 3-1-5-5 対象事業実施区域及びその周辺の食物連鎖模式図

3) 重要な自然環境のまとまりの場

対象事業実施区域及びその周辺の自然環境について、「計画段階配慮手続に係る技術ガイド(平成 25 年 環境省)」に基づき、重要な自然環境のまとまりの場の抽出を行った。抽出された重要な自然環境のまとまりの場を表 3-1-5-12 及び図 3-1-5-6 にそれぞれ示す。

表 3-1-5-12 重要な自然環境のまとまりの場

No.	重要な自然環境の まとまりの場	抽出理由
1	ヒノキアスナロ群落等の自然植生	自然林等、人為的な改変をほとんど受けていない自然環境や、一度改変すると回復が困難な脆弱な自然環境である。
2	岩木川河口のヨシ原帯	河川沿いの氾濫原の湿地帯等、減少又は劣化しつつある自然環境である。
3	津軽国定公園	環境保全の観点から自然公園(国定公園)に指定されている。
4	芦野池沼群県立自然公園	環境保全の観点から自然公園(県立自然公園)に指定されている。
5	大沢内ため池及び藤枝ため池	ため池等、減少又は劣化しつつある自然環境である。また、両ため池は、芦野池沼群県立自然公園の中核をなす地域を特徴づける重要な自然環境でもある。
6	鳥獣保護区	環境保全の観点から鳥獣保護区に指定されている。
7	保安林	水源涵養林や土砂崩壊防止機能を有する緑地等、地域において重要な機能を有する自然環境である。

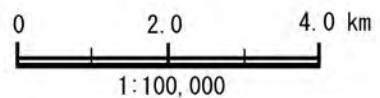


凡 例

図 3-1-5-6 重要な自然環境のまとまりの場

- : 対象事業実施区域
- (Green) : ヒノキスナロ群落等の自然植生
- (Blue) : 岩木川河口のヨシ原帯
- (Yellow) : 津軽国定公園
- (Orange) : 芦野池沼群県立自然公園
- (Pink) : 大沢内ため池及び藤枝ため池
- (Red-hatched) : 鳥獣保護区
(①十三湖、②岩木川河口、③田光沼、④芦野、⑤市浦)
- (Blue-hatched) : 保安林

出典: 「現存植生図 小泊」(環境省平成11年)、「現存植生図 金木」(環境省平成11年)
「現存植生図 蟹田」(環境省平成11年)、「現存植生図 油川」(環境省平成11年)
「公園計画図」(青森県2008年)
「青森県鳥獣保護区等位置図」(青森県平成25年)
「森林位置図兼管内図」(東北森林管理局平成19年)



4) 注目種の選定

対象事業実施区域及びその周辺の注目種として、環境類型区分別に「上位性」、「典型性」、「特殊性」の観点から注目種の抽出を行った。「上位性」では、生態系を形成する生物群集において栄養段階の上位に位置する種を、「典型性」では生態系の中で重要な機能的役割をもつ種や生物群集の多様性を特徴づける種を、「特殊性」では特殊な環境を特徴づける種や比較的小規模で周囲にはみられない環境を特徴づける種を抽出対象とした。注目種の抽出結果一覧を表 3-1-5-13 に示す。

表 3-1-5-13 注目種の抽出結果一覧

環境類型区分		上位性	典型性	特殊性
平地	農耕地	ハヤブサ	植生：水田雑草群落 動物：カワラヒワ、トノサマガエル、アキアカネ、コバネイナゴ	—
	ヨシ帯	チュウヒ	植生：ヨシ群落 動物：オオヨシキリ、ツバメ、アオヤンマ	オオセッカ
台地・丘陵	農耕地	キツネ	植生：水田雑草群落、畑地雑草群落 動物：ハタネズミ、ムクドリ、ホオジロ、ニホンカナヘビ、ベニシジミ	—
	植林	ノスリ	植物：スギ植林 動物：アカネズミ、コゲラ、ニホンカナヘビ	—
	二次林	ノスリ	植物：カシワ-ミズナラ群落 動物：アカネズミ、ヤマガラ、ヤマアカガエル、ミヤマクワガタ	—
山地	植林	オオタカ	植生：スギ植林 動物：ノウサギ、ヤマガラ、コゲラ	—
	二次林	オオタカ	植生：ブナ-ミズナラ群落 動物：ニホンザル、ゴジュウカラ	—
	自然植生	クマタカ	植生：ヒノキアスナロ群落、チシマザサ-ブナ群団 動物：ノウサギ、カモシカ、ヤマドリ	—
開放水域		ミサゴ	動物：カルガモ、ワカサギ、ウグイ、ヤマトシジミ	—
その他		—	動物：スズメ、カワラヒワ	—

3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

(1) 景観の状況

「地域別景観特性ガイドプラン」(平成9年3月 青森県)によれば、対象事業実施区域及び周辺地域は、「津軽平野北部景域」に含まれ、その概要は、「東側を低い山並みの連なる津軽山地、西側を直線的な七里長浜海岸に沿った屏風山砂丘に挟まれ、岩木川を軸に広大な水田景観が形成されている。また、岩木川河口部には十三湖のおだやかな景観が広がる」と表現されている。津軽平野北部景域の景観特性を表3-1-6-1に示す。

対象事業実施区域及び周辺地域はⅠ及びⅡの区域に該当する地域に位置し、Ⅲ、Ⅳの区域と隣接あるいは対面する区域に位置している。

津軽平野北部景域の主な眺望点と自然景観資源一覧を表3-1-6-2に、位置を図3-1-6-1にそれぞれ示す。

表3-1-6-1 津軽平野北部景域の景観特性

区域	景 観 特 性
Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・景域の中央に広がる広大な津軽平野には、大規模集約的な水田が展開し、極めて平坦な水平基調の強い田園景観が形成されている。また、平坦な景観に突出する岩木山はランドマークとして平野の全域から視認される。 ・岩木川をはじめとする平野を南北に貫流する河川、用水路は、面的な広がりを持つ眺望に明確な方向感を与える軸となるほか、堤防上や橋梁上等の微高地は、立体感に乏しい景観に変化を与えると同時に、それ自身周囲を見渡す眺望点となる。 ・平野に点在する帯状の自然堤防上を中心とした道路沿いには、防風林が形成された列状の農村集落が断続し、単調な水田の景観に変化を与えると同時に、眺望上の目標となる。 ・なお、集落を構成する家屋は伝統的な構造、意匠を持つものが多く残存する。
Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・平野の東側には、ゆるやかに起伏する津軽山地が低く連なり、平野からの仰角の浅いスカイライン、あるいは緑の背景として遠望される。
Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・平野の北端にあたる岩木川の河口には、おだやかな十三湖が広がり、周囲の砂丘や平野、低く連なる山地が、低く水平基調の緑の背景をなしている。
Ⅳ	<ul style="list-style-type: none"> ・平野の西側には、日本海に面した直線的な七里長浜海岸を伴う広大な屏風山砂丘が連なる。砂丘の大部分は発達した防風林に被われ、ゆるやかに起伏する水平に近いスカイラインを形成すると同時に、内陸部の一部は、平野からの視覚的境界となっている。 ・一部には、自然性の高い植生を有する湿原等の砂丘地特有の優れた自然景観が形成されている。

出典：「地域別景観特性ガイドプラン」(平成9年3月 青森県)

表 3-1-6-2 対象事業実施区域周辺の主な眺望点、自然景観資源一覧

No.	区分	資源名	概要
1	眺望点	七平展望台	中里の田園地帯及び十三湖、岩木山、日本海を一望できる。
2		栗山展望台 (呑龍岳展望台)	日本海や十三湖、屏風山、岩木山、権現崎まで一望できる。
3		中里城跡史跡 公園展望台	田園風景や市街地を見下ろせると共に、岩木山や屏風山、権現崎などを遠望できる。青森県景観条例第21条に基づく「ふるさと眺望点」に指定されている。
4		道の駅十三湖 高原展望台	中里の田園地帯及び十三湖、岩木山、日本海を一望できる。
5	自然景観資源	岩木川	津軽平野を南北に貫流している一級河川で、十三湖との合流部付近にはヨシ帯が広がっている。
6		十三湖	岩木川の河口部に広がる津軽最大の湖。シジミで全国的に有名である。
7		相内段丘	過去の海面に対応して形成された階段状の台地(段丘)地形。かつては海面近くにあり、波浪の侵食作用により形成されたものである。
8		金木段丘	
9		十三湖の白鳥	オオハクチョウの渡来地として知られ、「十三湖の白鳥」として県の天然記念物指定を受けている。
10		芦野公園の桜	津軽半島随一の桜の名所で「日本の桜名所百選」にも選定されている。

注)景観資源は、自然景観資源のみ抜粋。

出典：「地域別景観特性ガイドプラン」(平成9年3月 青森県)

青森県ホームページ「ふるさと眺望点(西北五地区)」

第3回自然環境保全基礎調査 青森県自然環境情報図(平成元年 環境庁)

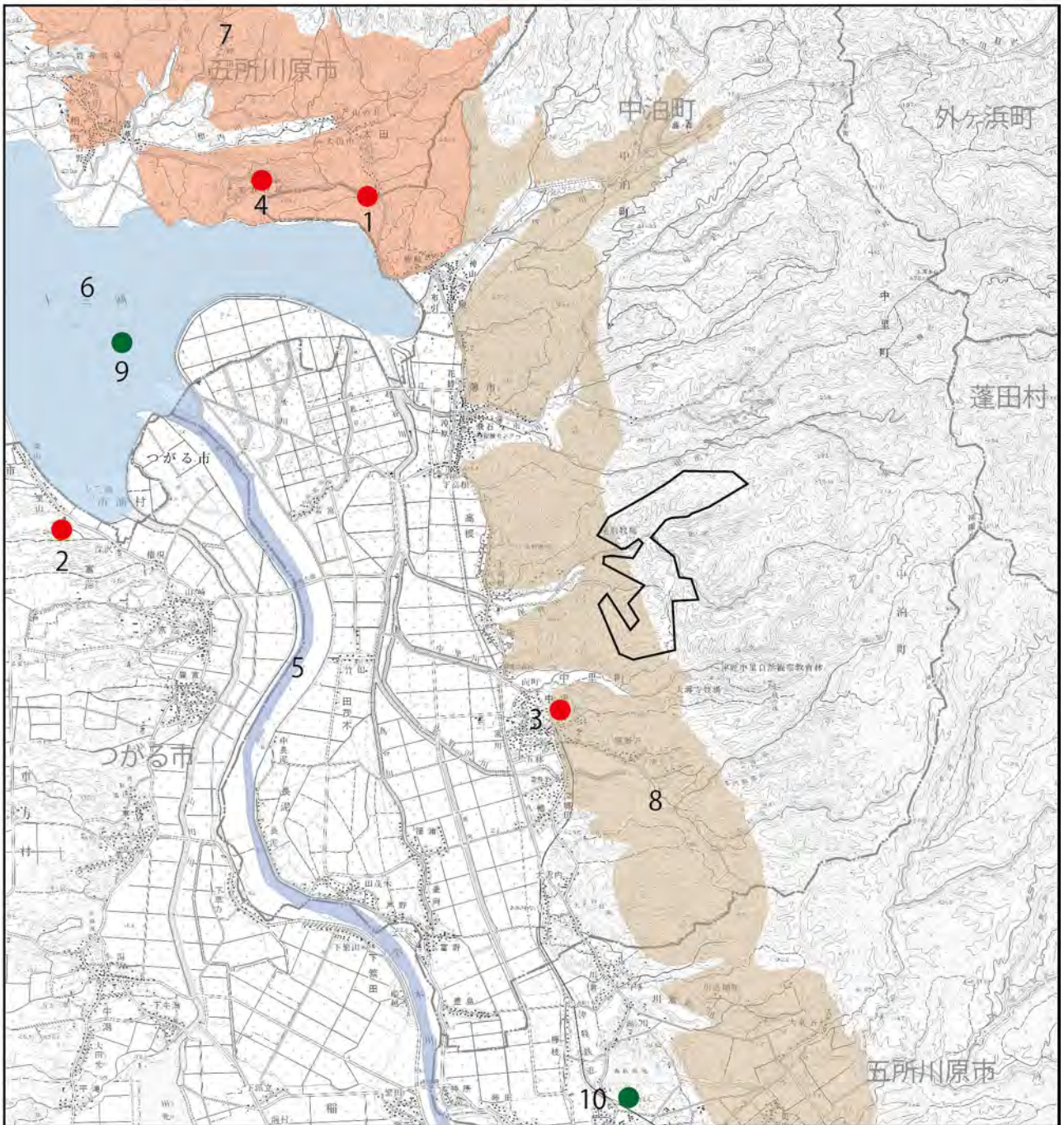


図 3-1-6-1 主な眺望点及び自然景観資源

凡 例

○ :対象事業実施区域

眺望地点

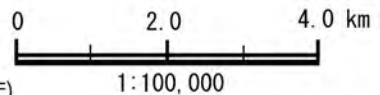
- 1.七平展望台
- 2.栗山展望台(呑龍岳展望台)
- 3.中里城跡史跡公園展望台
- 4.道の駅十三湖高原展望台

自然景観資源

- 5.岩木川
- 6.十三湖
- 7.相内段丘
- 8.金木段丘
- 9.十三湖の白鳥
- 10.芦野公園の桜



出典:地域別景観特性ガイドプラン(平成9年 青森県)
 青森県ホームページ「ふるさと眺望点(西北五地区)」
 第3回自然環境保全基礎調査 青森県自然環境情報図(平成元年 環境庁)



(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周辺における「人と自然との触れ合いの活動の場」としては、津軽国定公園や芦野池沼群県立自然公園、中泊町森林公園などがある。これらの「人と自然との触れ合いの活動の場」の概要を表 3-1-6-3 に、位置を図 3-1-6-2 にそれぞれ示す。

表 3-1-6-3 主要な人と自然との触れ合いの活動の場一覧

No.	名称	概要
1	津軽国定公園	東津軽郡外ヶ浜町から西津軽郡深浦町に至る延長約180kmの海岸部と山岳部、湖沼群等から成る。竜飛岬などの海岸侵食景観や、十三湖や屏風山地区の砂丘景観、世界自然遺産に指定されている白神山地、大小33の湖沼群から成る十二湖などが含まれる。
2	芦野池沼群 県立自然公園	中泊町の大沢内溜池と五所川原市の藤枝溜池(芦野湖)の2つの人工の溜池とその周辺から成る。芦野湖は桜の名所としても有名である。
3	中泊町森林公園	4kmの遊歩道その他、ふれあいセンター、コテージなどの休憩・宿泊施設がある。隣接している運動公園には、野球場やテニスコートなども整備されている。
4	津軽中里自然観察 教育林(歩道)	自然観察教育林(当該地域の自然を特色づけ、変化に富み、小中学校の自然科学教育に適した地域や特異な自然で自然探勝などで接することにより、国民の自然科学的興味を助長させることに適した地域)として指定されている。
5	砂防愛ランド	小規模のキャンプ施設その他、川沿いには遊歩道が整備されている。
6	不動の滝	国有林内にあり、清らかな瀑布は四季折々の美しいたたずまいをみせる。
7	太宰治と名水と 池沼群をめぐるみち	津軽半島の桜の名所である芦野湖や、恐山と共にイタコで知られる川倉賽の河原、緑の中の金木町運動公園、牧草茂る丘陵、広大な田園風景などといった変化に富んだ散策を楽しめるみちである。
8	高山稲荷と七里長浜 のみち	五穀豊穰・商売繁盛・海上安全の神を奉る高山稲荷神社と、太公望で賑わう七里長浜を通るみちである。

出典：奥津軽の旅案内ホームページ、津軽ナビホームページ、全国地域観光情報センターホームページ

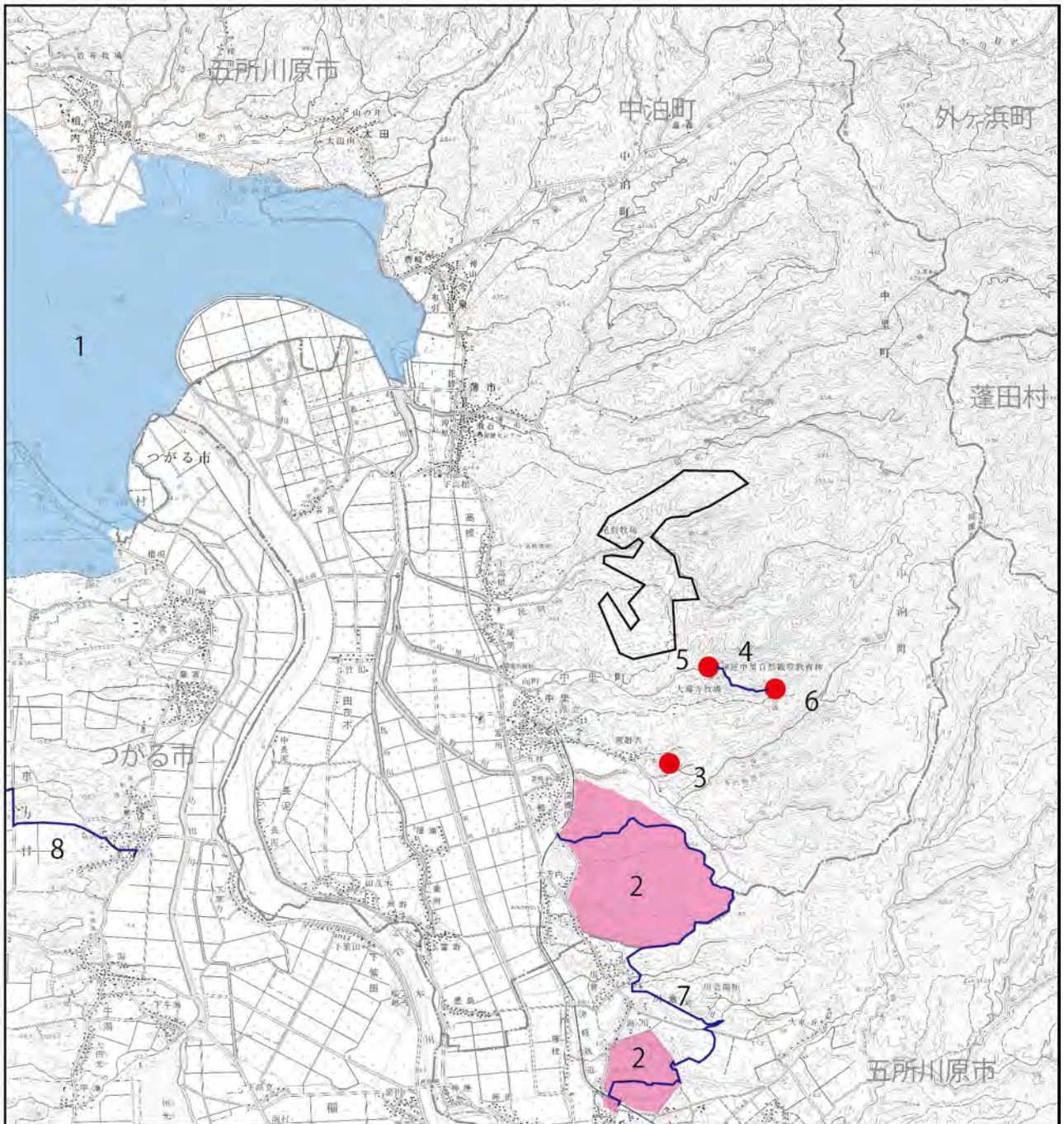










図 3-1-6-2 主要な人と自然との触れ合いの活動の場

凡 例

○ :対象事業実施区域

人と自然との触れ合いの活動の場

- | | |
|---|--|
|  1.津軽国定公園 |  5.砂防愛ランド |
|  2.芦野池沼群県立自然公園 |  6.不動の滝 |
|  3.中泊町森林公園 |  7.太宰治と名水と池沼群をめぐるみち |
|  4.津軽中里自然観察教育林(歩道) |  8.高山稲荷と七里長浜のみち |



出典:奥津軽の旅案内ホームページ
 津軽なびホームページ
 全国地域観光情報センターホームページ

